

大阪薬科大学報



Osaka University of Pharmaceutical Sciences

2009年（平成21年）9月30日発行

目 次

新学舎D棟竣工.....	1
新入学生の皆さんへ～新型インフルエンザを経験して～.....	学長 千 熊 正 彦 … 3
平成20年度後期授業・実習評価アンケート	教務部長 石 田 寿 昌 … 4
平成20年度進路・就職状況について	キャリアサポート部長 馬 場 きみ江 … 6
4年制下の薬剤師国家試験総まとめ.....	薬剤師国家試験対策委員長 掛 見 正 郎 … 8
「臨床的食欲関連ホルモン測定・解析システム」の紹介	臨床実践薬学研究室 荒 川 行 生 12
平成21年度公開教育講座	公開教育講座委員長 掛 見 正 郎 13
平成21年度市民講座	市民講座委員長 田 中 一 彦 13
学生相談室だより「怒りはどこへ…？」	学生相談室相談員 岡 鈴 佳 14
広域大学連携による「臨床医工学・情報学」高度人材育成システムの構築.....	15
石田寿昌教授が日本薬学会学術貢献賞を受賞.....	15
平成20年度学校法人決算及び平成21年度学校法人予算	事務局長 田 部 信 重 16
事務局だより.....	20・40
教員研究業績（2008年）	33
薬用植物の紹介（ホテイアオイ）	薬用植物園長 三 野 芳 紀



平成18年度に導入された新薬学教育制度に対応するため建設中であった新学舎「D棟」が、平成21年2月16日に竣工しました。

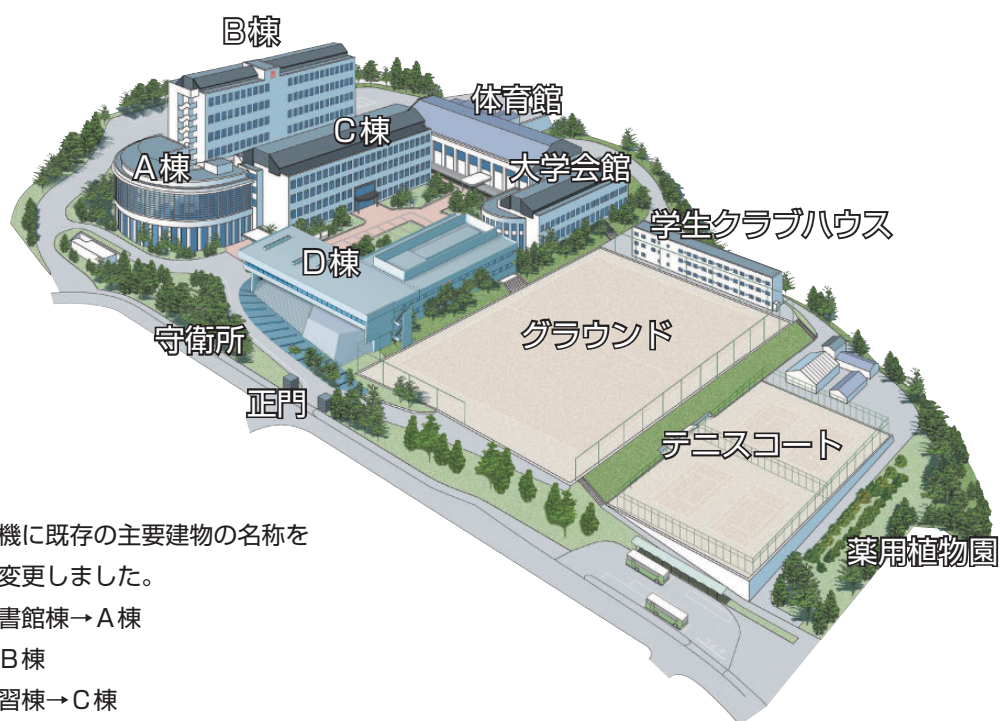
D棟は、鉄骨鉄筋コンクリート造、地下1階・地上3階（延べ床面積7,205㎡）の建物で、1階にはコンビニエンスストアを備えた学生ラウンジ、3階には講義室・セミナー室と自習室が設置されており、また、地下1階から地上2階にまたがる講堂を備えています。D棟の最大の特徴は2階にあり、ここには実務実習事前学習を主な目的とする医療・臨床薬学実習施設が1フロアに集中し、可能な限り透明ガラスで仕切られているため室内が廊下から見通せるようになっています。

こうしたD棟が、大阪薬科大学の目指す新しい個性的な薬学教育・薬剤師養成教育の推進と確立に大きな役割を果たすことはいうまでもありませんが、学生生活環境のアメニティの向上と充実に也大いに貢献するものと期待しています。

（41、42ページに関連記事を掲載しています。）



第1期芝生化工事が完了したグラウンドからD棟を臨む

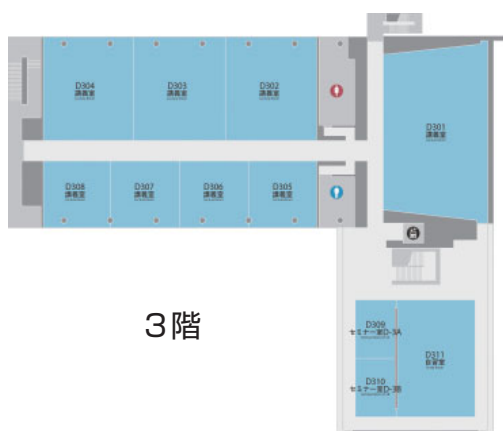
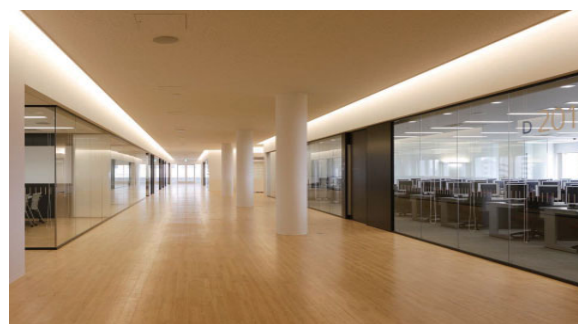
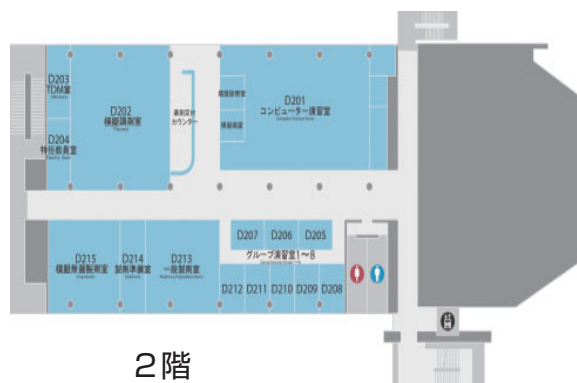
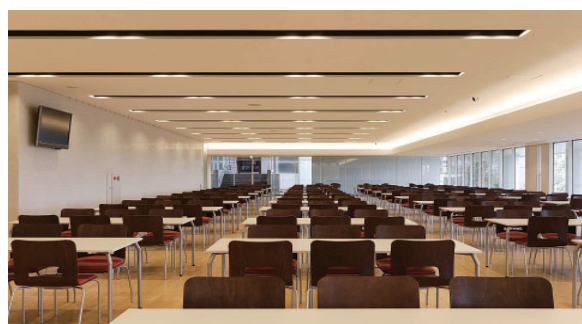
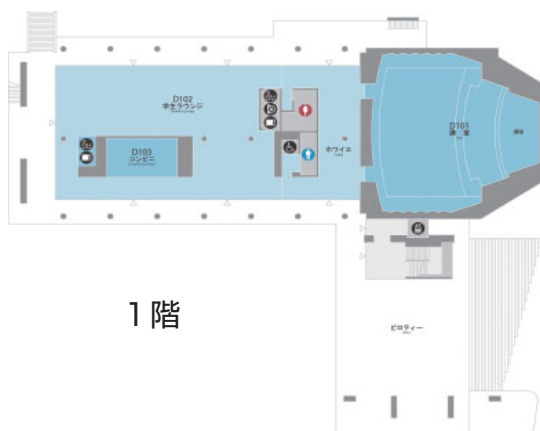


D棟竣工を機に既存の主要建物の名称を次のとおり変更しました。

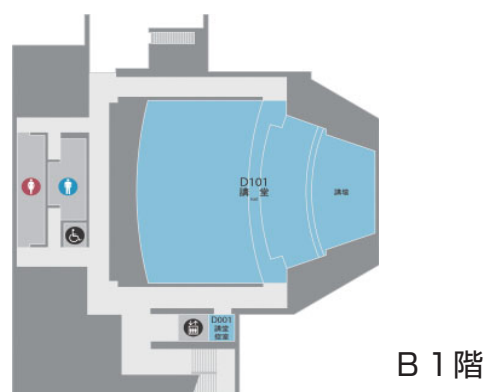
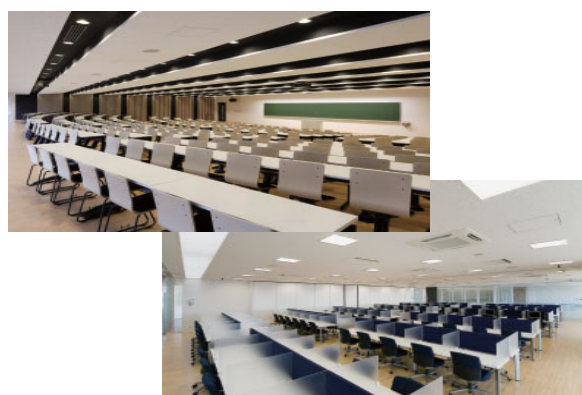
本部・図書館棟→A棟

研究棟→B棟

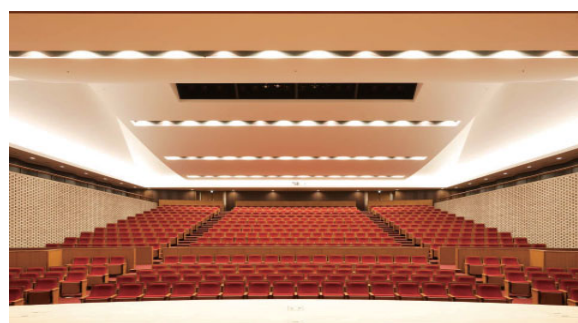
講義・実習棟→C棟



3階 D301講義室



B1階 講 堂



新入学生の皆さんへ

～新型インフルエンザを経験して～

学長 千熊 正彦



薬学新教育課程に備えて竣工したばかりの新学舎で挙行された入学式を経て、新入生の皆さんを伝統ある大阪薬科大学の一員としてお迎えすることができ、まことに喜ばしく思います。

大阪薬科大学は100年を超える歴史を持ち、卒業生の多くは病院や保険薬局などの薬剤師としてのみならず、創薬研究・開発に関わる研究者・技術者、薬事や環境衛生に関わる公務員などとして幅広い分野で活躍しています。新入生の皆さんの将来は希望に満ち溢れています。在学中は身体を鍛え、薬学の知識・技術を十分に修得していただきたいと思います。社会に出て薬に関して遭遇する問題を解決するためには、科学の原理を学ぶ基礎薬学科目が基盤となります。これらの科目は1～2年次で講義されるので、時間をかけて学修していただきたいと思います。基礎薬学科目に続いて応用薬学科目および医療薬学科目を学びます。大学の授業で習ったことは卒業すると忘れてしまうことも多いのですが、深く理解した事柄に関してはきっかけがあればすぐに思い出することができます。医療現場で働く薬剤師の知識不足は許されません。授業で学ぶことを大切にしながら勉強し、得た知識をもとに自分で考える能力を磨いていただきたいと思います。理解できないことがあれば、オフィスアワーを利用して科目担当教員に積極的に質問してください。

今年の5月、私たちは新型インフルエンザ（H1N1型）の流行を受けて5月18日（月）から24日（日）まで臨時休講といたしました。また、休講期間中は学生および大学院生のクラブ活動をはじめキャンパスへの立ち入りも禁止しました。今回の事態を経験して、本学の危機管理が必ずしも万全ではなかったことを反省し、緊急事態に対処できる体制を整備いたしました。

医療に貢献しようという新入生の皆さんには、世界規

模で流行している新型インフルエンザを材料としていろいろなことを学び取っていただきたいと思います。

鳥や豚のウイルスが人のウイルスに変異する可能性については、以前から警告が発せられておりましたので、4月末にメキシコで数百人規模の感染者があり、さらに米国でも感染者がでていたという新聞報道があったときには、とうとうこの日がやってきたのかと思いました。しかし、それが短時間で関西に飛び火するとは、正直言って考えておりませんでした。5月中旬に神戸市で同じ高校に通う高校生の集団感染が確認されたのですが、当初の診断基準項目の渡航歴がなかったので、季節性インフルエンザと断定されても不思議ではありませんでした。診療に当たった一医師が念のために調べてみようという機転がなかったなら、新型インフルエンザの感染はもっと拡大していたと言われています。現場で多くの患者と対応する医療関係者の経験と勘が大切であるという例の一つだと思います。

新型インフルエンザの病原性が高くないとの認識が浸透したことから、社会は早々に落ち着きを取り戻しました。しかし、ハイリスク・グループ、すなわち新型インフルエンザに感染すると合併症を起こしやすい免疫不全の人の場合、十分な注意が必要であります。また、注目すべきことは、従来なら患者が発生しなくなる夏場になっても相変わらず新規の患者が発生していることでもあります。秋や冬に来る可能性が高い「第2波」では、薬物耐性を獲得した新型インフルエンザや毒性和感染性の両方が高いインフルエンザの出現の可能性もあると心配されています。

本学関係者それぞれが体調管理に留意していただき、感染予防に努める一方、罹患した場合には感染源とならないように医療関連大学の一員として慎重に行動していただきたいと思います。

前期授業科目に続いて、後期授業科目に対しても1～3年次を対象に評価アンケートを行いました（4年次後期は薬学総合演習のみで評価アンケート対象外）。アンケート調査を行う目的は、当然のことながら、授業（講義・演習・実習内容とそのレベル）が学生にとって適切か、理解させるための工夫・配慮が充分になされているかを学生に問うと共に、教育全般に関する意見や要望を聞き、学生にとってより分かりやすく、有益な授業を行うこと、また、学生主体の教育へと改善していくことにあります。そして、そのためには評価アンケートを継続的に行うことが極めて重要で、それは各年度列による解析で初めて授業担当者に対する妥当な評価が可能となるからです。そして、その評価は教員・学生そして本学の学部教育にとって極めて重要な意義を持つことと言うまでもありません。現在、本学ではFD（Faculty Development）委員会が教育全般についての評価検討を進めています。このアンケート結果は授業科目の総合評価のための重要な基礎資料を提供するものです。

アンケート結果はデータ化して保存すると共に、授業担当者に返却し、評価結果に対する各教員の意見と今後の対応を「学生へのメッセージ」として小冊子にまとめ学生の閲覧に供しています。また、授業を効果的に進める上で必要な要望や意見に対しては教務部・教務課が中心となって対応しています。

以下に平成20年度後期集計結果を掲載しています。回収率は全学年で54.7%であり、評価アンケートの重要性に鑑み、今後、回収率を高める方策を考えたいと思っています。一方、実習・演習評価アンケートの回収率は、1年次生94.4%、2年次生95.4%、3年次生86.6%、全学年92.4%と非常に高い数値を示しており、アンケートの取り方（座学のようなまとめて取る場合と実習・演習のような少人数ごとに取る場合）に回収率は大きく影響されることは明らかです。

図1は17の設問項目と1～3年次科目の全体を比較した棒グラフ図、表1は各設問項目に対する評価分布表を示しています。5段階評価で表しています。数値が3.00は各設問の平均評価点に相当しますので、各設問の評価はその値からの変位で解釈してください。前回同様、学生はあまり予習・復習をしていないことは気になりますが、設問項目の多くは3.5以上であり、比較的良好に授業が進められていると判断できます。しかし、最低評価の設問事項17（全学年平均＝3.27）は、目的意識を持たず、ただ漫然と授業に臨んだ場合、学習効果は極めて低いことを示しており、このような対応が続けば知識は十分に身に付かず、学年進行と共に益々授業が理解出来なくなる危険性のあることを学生諸君は十分認識すべきです。このことは、設問事項11で授業レベルがどちらかと言えば難しいと答えた学生が39.9%もいたこと、設問項目12が全体として低い評価（3.69）であったことから明らかです。教員側もこのことを十分認識して対応していただきたと思います。

図2は評価項目5, 6, 11, 12, 15, 16に対して、4年制（H15～H17年度入学）と6年制（H18年度以降入学）の比較を示しています。正確な解析には6年制評価データがさらに必要ですが、各項目の平均値、学年進行に伴う平均値の推移では両制度間に大きな相違は見られず、制度変更に伴うカリキュラム（教育内容）改訂に対して学生の勉学意欲に大きな変化（影響）がないことが伺えます。ただ、気になることとして、項目15, 16において、4年制学生では学年進行と共に右上がりであるのに対し、H18年度入学の場合はそうでなく、特に3年次での評価は2年次より少し下がっている点です。これは単なる当該年度のみ現象であるのか、H19年度以降も同様の傾向が見られるのかに注意する必要があると考えています。もし後者の場合であれば、右上がりになるような方策を講じる必要があると考えています。

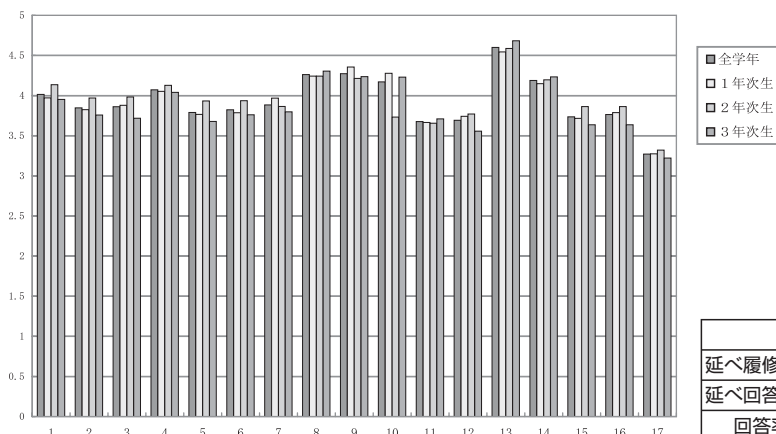
図1

〔設問〕

1. 口調が明瞭で聞き取りやすかったですか
2. 板書やその他（プリント、OHP、ビデオ、液晶プロジェクター）による説明が適切で授業の理解に役立ちましたか
（板書等を使用しなかった場合は0を記入してください）
3. ポイントをよく押さえ、うまく要約されていきましたか
4. 授業は、「授業の内容」（シラバス）に沿って進められましたか
5. 授業は、説明が十分で理解しやすかったですか
6. 授業に対する関心を高める努力がなされていましたか
7. 私語や態度の悪い学生に対し注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていましたか
8. 授業は、時間通り始まり時間通り終わりましたか
9. 指定されたテキストや教材は適切に使用されていましたか
（指定されていない場合は0を記入してください）
10. 休講があった場合、その補いは十分にされていましたか

（休講がなかった場合は0を記入して下さい）

11. 授業内容のレベルはあなたにとって適切でしたか。次の基準で回答してください
（5－非常に難しい、4－難しい、3－適切、2－簡単、1－簡単すぎる）
12. この授業を総合的に評価してください。次の評価基準で回答してください
（5－非常に良い、4－良い、3－普通、2－あまり良くない、1－良くない）
13. あなたは、この授業によく出席しましたか
14. あなたは、私語などせず授業に集中しましたか
15. この授業を受けてその分野に対する関心が高まりましたか
16. この授業は、あなたにとって有意義なものでしたか
17. あなた自身、授業を理解するよう努力（予習・復習等）をしていましたか



回答は、5 - そう思う（5ポイント）、4 - どちらかといえばそう思う（4ポイント）、3 - どちらともいえない（3ポイント）、2 - あまりそうは思わない（2ポイント）、1 - そうは思わない（1ポイント）から選択。ただし、設問2, 9, 10については、0 - 該当しない（0ポイント）を設けている。また、各設問において回答がない場合は、集計から除外している。

	全学年	1年次生	2年次生	3年次生
延べ履修人数	12,500名	4,849名	3,472名	4,179名
延べ回答人数	6,832名	2,664名	2,057名	2,111名
回答率	54.7%	54.9%	59.2%	50.5%

表 1

全学年

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えはそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.01	35.9%	37.7%	19.3%	5.6%	1.3%	—	0.2%
2	3.85	28.7%	36.1%	24.2%	6.1%	2.4%	2.3%	0.2%
3	3.86	28.3%	38.5%	25.3%	5.8%	1.8%	—	0.3%
4	4.07	35.4%	38.1%	24.2%	1.5%	0.4%	—	0.4%
5	3.79	26.4%	37.1%	27.2%	7.0%	2.1%	—	0.3%
6	3.82	27.2%	37.5%	27.3%	5.5%	2.2%	—	0.4%
7	3.88	29.2%	36.3%	29.2%	3.6%	1.5%	—	0.3%
8	4.26	47.4%	34.9%	14.3%	2.3%	0.8%	—	0.4%
9	4.27	43.8%	28.0%	12.8%	2.4%	0.7%	12.0%	0.3%
10	4.17	16.6%	5.9%	7.7%	0.8%	0.7%	67.4%	0.9%
11	3.68	14.8%	39.9%	43.0%	1.4%	0.4%	—	0.5%
12	3.69	19.3%	39.8%	32.9%	5.5%	2.0%	—	0.5%
13	4.60	69.8%	21.6%	6.7%	1.2%	0.3%	—	0.4%
14	4.19	41.5%	38.9%	16.2%	2.3%	0.7%	—	0.4%
15	3.74	24.0%	36.0%	30.8%	6.3%	2.3%	—	0.5%
16	3.76	24.5%	37.7%	29.0%	5.8%	2.4%	—	0.5%
17	3.27	13.2%	26.0%	41.0%	13.2%	6.1%	—	0.6%

1 年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えはそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.97	34.2%	35.7%	23.5%	5.8%	0.7%	—	0.2%
2	3.82	29.1%	33.4%	27.3%	6.4%	2.1%	1.5%	0.2%
3	3.88	28.3%	38.1%	27.3%	4.9%	1.1%	—	0.3%
4	4.05	35.3%	37.2%	24.3%	2.4%	0.3%	—	0.5%
5	3.77	25.6%	34.1%	32.6%	6.0%	1.4%	—	0.3%
6	3.79	24.8%	37.5%	30.1%	5.5%	1.7%	—	0.3%
7	3.97	30.7%	39.2%	26.0%	3.0%	0.7%	—	0.4%
8	4.24	45.7%	35.6%	15.4%	2.4%	0.5%	—	0.4%
9	4.36	44.3%	25.5%	11.3%	1.4%	0.3%	16.9%	0.3%
10	4.28	28.4%	9.1%	10.3%	1.1%	0.7%	49.5%	0.9%
11	3.66	15.0%	39.4%	42.5%	2.4%	0.3%	—	0.3%
12	3.74	19.7%	41.3%	32.6%	4.8%	1.1%	—	0.5%
13	4.54	66.6%	23.0%	8.2%	1.7%	0.3%	—	0.3%
14	4.15	39.4%	38.4%	19.3%	2.3%	0.3%	—	0.3%
15	3.72	23.2%	33.9%	35.0%	5.9%	1.6%	—	0.5%
16	3.79	24.7%	37.5%	30.4%	5.1%	1.7%	—	0.6%
17	3.27	13.6%	26.1%	39.5%	14.6%	5.7%	—	0.5%

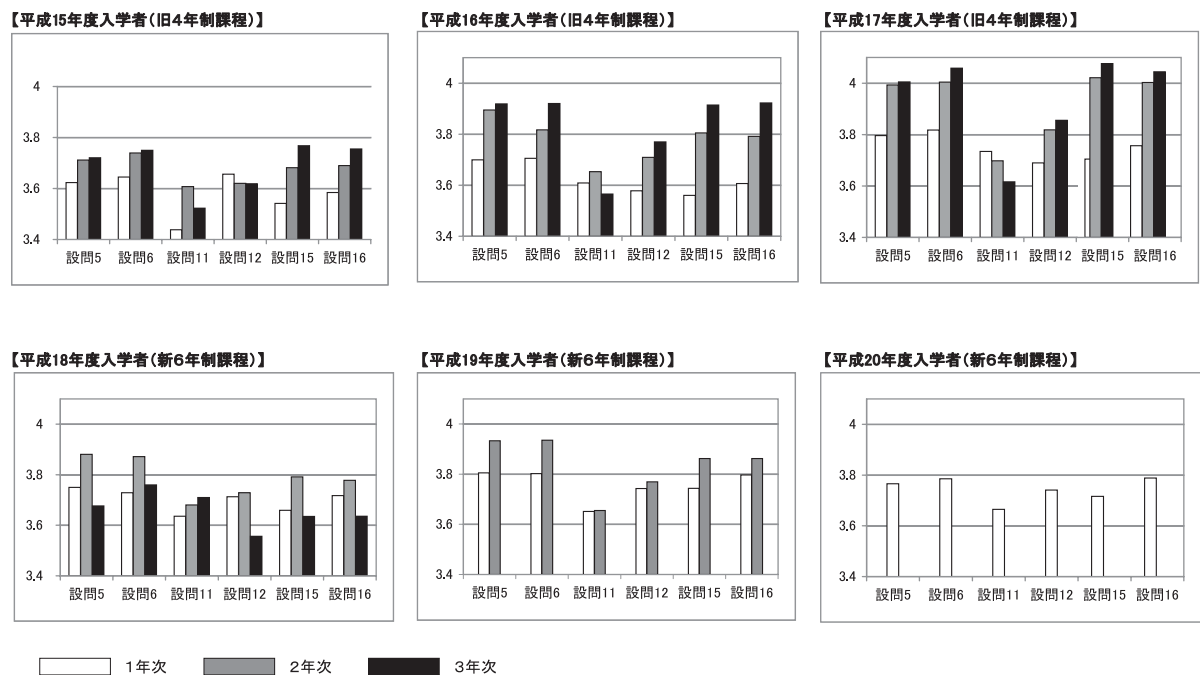
2 年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えはそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	4.13	44.0%	34.3%	14.4%	5.3%	1.8%	—	0.2%
2	3.97	32.7%	36.4%	21.4%	4.6%	1.7%	2.8%	0.3%
3	3.98	34.7%	37.0%	21.4%	4.7%	1.8%	—	0.3%
4	4.13	37.4%	38.7%	22.1%	0.6%	0.5%	—	0.7%
5	3.93	32.8%	37.8%	21.0%	5.9%	2.2%	—	0.3%
6	3.94	33.3%	35.9%	23.2%	4.6%	2.4%	—	0.6%
7	3.86	29.8%	35.0%	28.3%	4.3%	2.1%	—	0.3%
8	4.24	46.9%	34.8%	14.7%	2.1%	1.2%	—	0.3%
9	4.21	47.1%	30.2%	15.0%	3.3%	1.6%	2.5%	0.3%
10	3.73	6.5%	3.1%	7.5%	0.6%	0.9%	80.1%	1.3%
11	3.66	14.9%	37.0%	46.1%	0.7%	0.5%	—	0.7%
12	3.77	23.4%	38.3%	31.2%	4.5%	2.0%	—	0.6%
13	4.59	68.6%	22.5%	7.0%	1.1%	0.4%	—	0.5%
14	4.20	42.9%	37.9%	15.2%	2.3%	1.2%	—	0.5%
15	3.86	28.5%	37.6%	26.6%	4.6%	2.1%	—	0.5%
16	3.86	28.1%	39.2%	24.9%	5.2%	2.2%	—	0.5%
17	3.32	13.8%	26.2%	42.8%	11.4%	5.3%	—	0.6%

3 年次生

設問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えはそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.95	30.1%	43.5%	18.9%	5.8%	1.5%	—	0.1%
2	3.76	24.3%	39.2%	22.8%	7.4%	3.5%	2.7%	0.1%
3	3.72	22.1%	40.4%	26.7%	8.0%	2.6%	—	0.3%
4	4.04	33.5%	38.7%	26.1%	1.4%	0.2%	—	0.1%
5	3.68	21.1%	40.3%	26.2%	9.4%	2.8%	—	0.2%
6	3.76	24.2%	38.9%	27.6%	6.4%	2.6%	—	0.3%
7	3.80	26.6%	33.7%	33.9%	3.7%	1.8%	—	0.2%
8	4.30	50.0%	34.0%	12.5%	2.3%	0.9%	—	0.4%
9	4.24	39.8%	29.1%	12.5%	3.0%	0.5%	15.0%	0.2%
10	4.23	11.6%	4.5%	4.7%	0.5%	0.3%	77.8%	0.5%
11	3.71	14.4%	43.3%	40.5%	0.9%	0.3%	—	0.5%
12	3.56	14.9%	39.2%	35.0%	7.4%	3.1%	—	0.4%
13	4.68	74.9%	19.1%	4.7%	0.7%	0.2%	—	0.4%
14	4.23	42.9%	40.5%	13.3%	2.2%	0.7%	—	0.4%
15	3.64	20.7%	37.2%	29.5%	8.6%	3.5%	—	0.5%
16	3.64	20.6%	36.6%	31.4%	7.4%	3.6%	—	0.5%
17	3.22	12.2%	25.5%	41.1%	13.3%	7.3%	—	0.6%

図 2



平成20年度学部卒業生（56期生）、大学院博士前期（修士）課程修了生（33期生）の進路・就職状況について報告します。本学学生の進路・就職状況は昨年同様堅調に推移しています。学部卒業生の場合、特徴が2つあります。第1点目は、大学院進学者が32.1%で進路・就職先の第1位であるという点です。第2点目は、公務員希望者・合格者が大幅に増加しており、厚生労働省（麻薬取締官）や東京都特別区（23区）、大阪府、奈良県、和歌山県、大阪市、高槻市、京都市等に就職しています。ちなみに卒業生290名の内訳は、薬局・ドラッグストア21.7%（前年23.3%）、病院・研修生18.6%（14.5%）、薬業関連企業14.1%（15.2%）、公務員11.0%（5.7%）、大学院進学32.1%（37.8%）、他大学等進学1.7%（1.1%）、その他0.7%（2.3%）となっています（平成21年3月31日現在）。また、大学院博士前期（修士）課程修了生（54名）の就職率は100%で、特に薬業関連企業61.1%（前年66.6%）、病院・研修生11.1%（11.7%）、公務員16.7%（11.7%）等です（平成21年3月31日現在）。

昨秋からの米国発世界金融危機の影響により、「100年に1度の大不況」と言われ、予想以上に雇用不安が拡

大しています。その中でも本学学生の就職は、堅調に推移しています。4年制から6年制への移行に伴う、空白の2年間（平成22、23年）を埋める求人増加が、保険薬局等を中心に顕著に表れてきていますが、製薬企業等では厳選採用が続いています。さらに薬業関連企業では、合併会社を中心に研究、医薬開発部門や学術等においては開発疾患の絞り込みや組織の統廃合が進み各企業で新規採用の見直しも頻回に行われています。

キャリアサポート部委員会・キャリアサポート課では、学生へのキャリア教育、キャリアサポート（進路・就職支援）の更なる充実を図っています。多様化している学生のニーズ、価値観に沿った進路・就職先選定のために、キャリアサポート部委員、専属キャリアカウンセラー等を中心に学生一人ひとりの興味、能力、価値観に応じたきめ細かな対応に努めています。目まぐるしい就職環境の変化に迅速かつ的確に対応していく所存です。

表1・表2は、平成20年度学部卒業生（56期生）、大学院博士前期（修士）課程修了生（33期生）の進路・就職状況及びキャリアサポート活動の現状です。ご参照ください。

表1

平成20年度 学部卒業生（56期生）進路・就職状況

（平成21年3月31日現在）

区 分		男	%	女	%	合 計	%
薬局		17 (15)	15.3%	46 (46)	25.7%	63 (61)	21.7% (23.3%)
病院・診療所		3 (5)	2.7%	39 (31)	21.8%	42 (36)	14.5% (13.7%)
病院研修生		3 (—)	2.7%	9 (2)	5.0%	12 (2)	4.1% (0.8%)
薬業関連企業	(MR)	15 (19)	13.5%	17 (17)	9.5%	32 (36)	11.0% (13.7%)
	(内勤)	2 (1)	1.8%	7 (3)	3.9%	9 (4)	3.1% (1.5%)
公務員・教職員		11 (3)	9.9%	21 (12)	11.7%	32 (15)	11.0% (5.7%)
大学院進学 （博士前期課程）		57 (49)	51.4%	36 (50)	20.1%	93 (99)	32.1% (37.8%)
他大学等進学		3 (2)	2.7%	2 (1)	1.1%	5 (3)	1.7% (1.1%)
その他		— (1)	—	2 (5)	1.1%	2 (6)	0.7% (2.3%)
合 計		111 (95)	100.0%	179 (167)	100.0%	290 (262)	100.0% (100.0%)

※（ ）内は、昨年3月31日現在を示す。

※※公務員には公立病院も含む（8名）

表2

平成20年度 大学院博士前期(修士)課程修了生(33期生)進路・就職状況 (平成21年3月31日現在)

区 分		男	%	女	%	合 計	%
薬局		2 (1)	8.0%	－ (3)	－	2 (4)	3.7% (6.7%)
病院・診療所		1 (2)	4.0%	5 (5)	17.2%	6 (7)	11.1% (11.7%)
薬業関連企業	(MR)	3 (－)	12.0%	3 (2)	10.3%	6 (2)	11.1% (3.3%)
	(内勤)	13 (20)	52.0%	14 (18)	48.3%	27 (38)	50.0% (63.3%)
公務員・教職員		3 (4)	12.0%	6 (3)	20.7%	9 (7)	16.7% (11.7%)
大学院進学 (博士後期課程)		3 (1)	12.0%	1 (1)	3.4%	4 (2)	7.4% (3.3%)
合 計		25 (28)	100.0%	29 (32)	100.0%	54 (60)	100.0% (100.0%)

※ () 内は、昨年3月31日現在を示す。

※※公務員には公立病院も含む(2名)



ビデオシステムを利用した個別指導



資料室での個人面談



第2回公務員対策講座



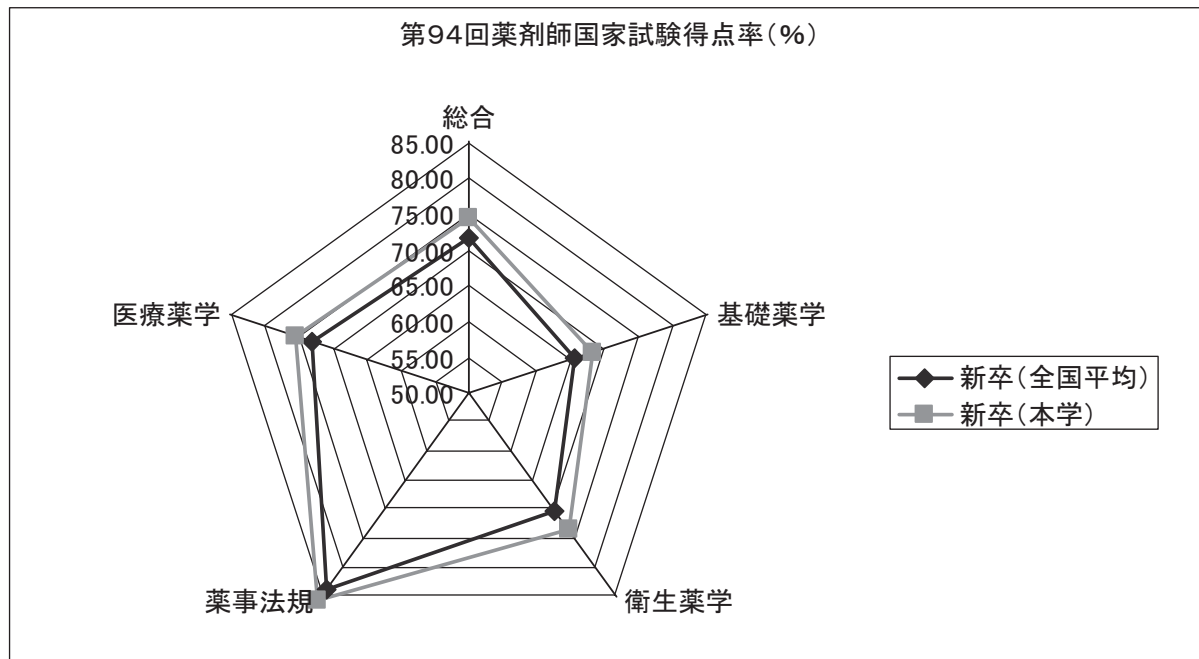
資料室利用状況

第94回薬剤師国家試験の合格者発表が去る4月3日に厚生労働省で行われた。本学の成績は、新卒合格率94.83 %（全国61大学中第5位）、既卒者を含めた全体合格率は89.66 %（同第7位）であった。当初目標とした「95%以上の合格率」には残念ながら僅かに及ばなかったものの、近畿地区10大学中では合格率第1位、新卒平均点178.15点は全国第2位（昨年は182.15点で全国第1位）、全科目（基礎薬学、衛生薬学、薬事関係法・制度、医療薬学）の各平均点も昨年に引き続き全国平均を大きく上回る成績であった（図1）。これはこの1年間、全学あげて薬剤師国家試験の「成績向上」に取り組んだ成果であり、国家試験対策委員をはじめ関係教職員のご協力と、そして何よりも学生諸君の努力に対し、心から感謝と敬意を表するものである。特にここ数年、薬剤師国家試験対策委員会は「卒業留年生を極力出さず、しかも卒業生全員の国家試験合格」を目標に取り組んできた。本年度はその成果がやっと表れ、国家試験不合格者と卒業留年生（薬学総合演習）の合計が、この20年間では初めて30名以下に抑えることが出来た。このように、本年度の薬剤師国家試験対策に関しては、

いくつかの不満足な点はあるものの、概ね合格点に到達したのではないかと考えている。

ご承知の通り「薬剤師養成のための薬学修業年限」が平成18年4月入学生から6年に改訂されたため、今回の国家試験が、薬学4年制下の試験としては「事実上最後」^(注1)ということになる。そこでこの二十余年間、本学における薬剤師国家試験の成績とその対策状況を、反省を込めて、一度記録に残しておきたいと思う。さて、わが国の「薬剤師国家試験制度」が始まったのは今からちょうど60年前^(注2)、本学を含めた「新制大学」が発足する2年も前のことである。当時の薬剤師国家試験の成績は、手元に記録がないので正確ではないが、本学の前身である名門「帝国女子薬学専門学校」の流れを汲むだけあって、「特段の対策」を講じなくても概ね良好であったと聞き及んでいる。しかしながら年号が昭和から平成に変わる頃になって成績の急激な低迷が始まり、第77回（平成4年）の国家試験合格率順位は、私学29大学中26位、第78回（平成5年）では私学29大学中28位となった。ここに至って、本学においてもようやく国家試験対策の必要性が認識され、平成5年度には「国家試験

図1 第94回薬剤師国家試験科目別平均点の比較



(注1) 新制度による薬剤師国家試験（2011年度：第97回）が開始されるまでの2力年間は、留年その他の理由による受験生のために現行の試験が行われるので、厳密に言えば第94回が旧制度の「最後」ではない。

(注2) 1949年（昭和24年）5月15日に第1回薬剤師国家試験が施行された。科目は薬理学、薬剤学、衛生化学、日本薬局方で、学説・実地試験にわかれて2日間実施された。この試験方法は、実地試験がその後「筆答方式」に変更になったものの、第80回（1994年度）まで踏襲された。ちなみに、第1回国家試験合格者は、2,276名（合格率:81.3 %）である。現在、新卒の合格率は87%前後で、この値はこの60年間殆ど変わっていない。国家試験は、はじめは年1回、その後年2回（4月と10月）実施されたが、第72回（1987年）からは現行通り年1回に改められた。

対策委員会」の発足とともに、4年次科目「薬学総合演習」が急遽設定されることとなった。このように、本学の国家試験対策は文字通り泥縄^{どろなわ}で始まったわけであるが、その成果は大方の予想に反して短期間のうちに如実に表れることとなった。すなわち、第80回（1994年度）国家試験では新卒合格率93.51%、全国第1位に輝くとともに、当時大学開設以来、8年連続薬剤師国家試験合格率1位を続けてきたS大学薬学部を初めて破った大学として一躍有名となった。ところが、その後の経過は、合格率はもとより成績自体（平均点）も再び転落の一途を辿ったことは、多くの方々の記憶に新しいところである。いわゆる「一発屋」で終わってしまったのである。その上、このとき教員ばかりでなく学生の間にも生じた、「国家試験の成績など、簡単に上げることが出来る」という「思い込み」あるいは「考え違い」が、このあと8年にも亘る成績低迷の足枷^{あしかせ}となった。表1には、現制度^{（注3）}

が始まった第81回国家試験（1995年度）から第94回薬剤師国家試験（2008年度）までの14年間の本学における成績（新卒）を示した。

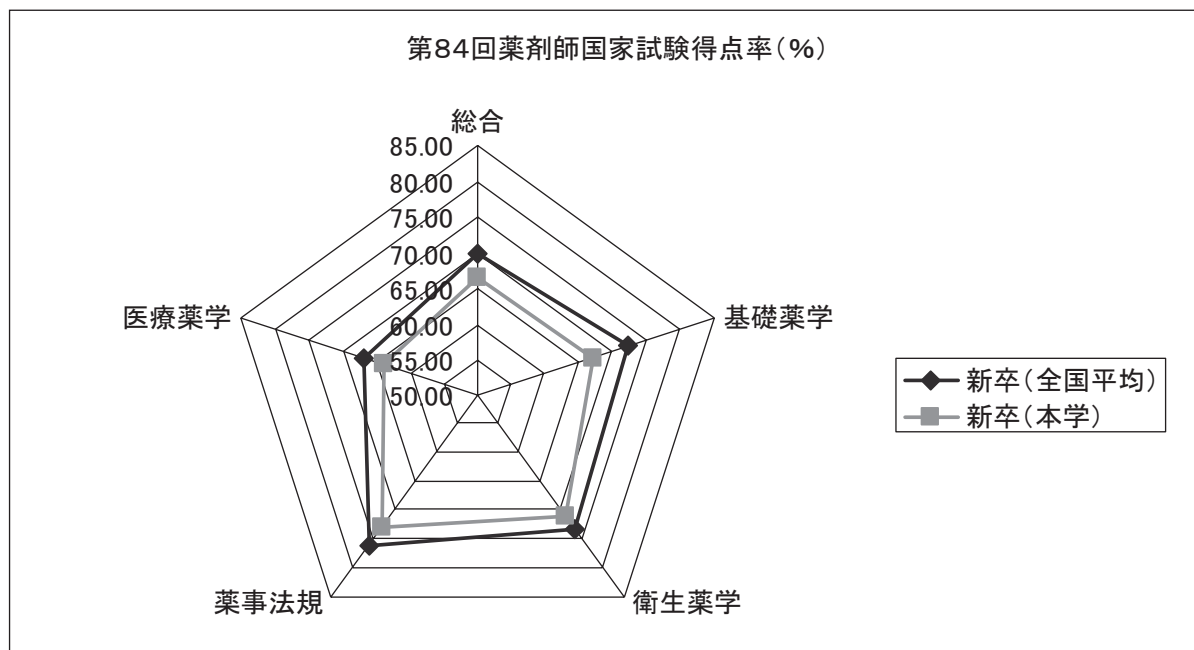
この表からも明らかな通り、2003年度を境にして本学は「薬剤師国家試験成績優良校」となり、特にここ2年間は後に述べるように成績の基盤も堅牢となり、容易には崩れない所まで来たと実感している。しかし、第89回国家試験において本学の成績が突然上昇した当時は、以前のように大方「一発屋」で終わるに違いないと見られていた。しかしそれ以後も成績が維持されているのを見て、本学の状況が一変していることがやっと認識されるようになった。最近では「大阪薬科大学では一体何が起こったのですか？どうすればそのように成績を上げることが出来るのですか？」と他大学の国試対策担当者からよく質問されることがある。「本学の学生は常日頃からよく勉強しますから」というのが私の決まった答

表1 大阪薬科大学における薬剤師国家試験の現状（新卒）
（受験者数、合格者数、不合格者数、留年者数、合格率、全国合格率、平均点、全国平均点）

年度	受験者数	合格者数	不合格者数	薬総留年者数	合格率	全国合格率	全国順位	本学平均点	全国平均点
2008年度 第94回	290	275	15	13	94.83%	84.83%	$\frac{5}{61}$	178.15	171.46
2007年度 第93回	262	252	10	23	96.18%	86.30%	$\frac{3}{56}$	182.15	173.05
2006年度 第92回	257	228	29	33	88.72%	85.60%	$\frac{15}{48}$	175.70	173.09
2005年度 第91回	270	252	18	31	93.33%	85.16%	$\frac{2}{46}$	177.67	173.09
2004年度 第90回	235	235	0	31	100.0%	93.29%	$\frac{1}{46}$	185.18	181.82
2003年度 第89回	255	241	14	28	94.51%	86.42%	$\frac{4}{46}$	174.60	171.91
2002年度 第88回	284	239	45	14	84.15%	88.52%	$\frac{33}{46}$	170.11	174.12
2001年度 第87回	299	254	45	15	84.95%	88.59%	$\frac{35}{46}$	166.03	169.08
2000年度 第86回	332	266	66	13	80.12%	84.08%	$\frac{35}{46}$	164.52	166.87
1999年度 第85回	257	226	31	12	87.94%	88.46%	$\frac{26}{46}$	168.07	169.27
1998年度 第84回	289	215	74	5	74.39%	86.15%	$\frac{42}{46}$	159.70	167.63
1997年度 第83回	341	246	95	1	72.14%	82.01%	$\frac{36}{46}$	151.06	157.30
1996年度 第82回	289	252	37	—	87.20%	81.22%	$\frac{18}{46}$	163.08	163.86
1995年度 第81回	327	286	41	—	87.46%	84.68%	$\frac{15}{46}$	173.81	173.57

（注3）第81回国家試験（1995年度）から現行の科目（基礎薬学、衛生薬学、薬事関係法・制度、医療薬学）合計240問に変更された。

図2 第84回薬剤師国家試験科目別平均点の比較



である。「成績を下げることは一瞬にでも出来ますが、成績を上げるには地道な努力と時間がかかりますから、成績向上の妙案などはありません」。

本学における国家試験ワースト記録は、第83回国家試験（1997年度）であるとされている。この年、341名の卒業生のうち、実に95名もの国家試験不合格者を出した（表1）。合格率72.14%、全国平均よりも10%も低い結果である。しかしながらこの「合格率」は、単なる結果であって成績不振の本質ではない。私は、本学国家試験ワースト記録は、翌1998年度の第84回であると考えている。第84回の科目別成績（図2）は、実に全科目において全国平均よりも大きく下回っていることを示している。これを図1（第94回）と比較すると、一層明らかである。国家試験の成績がここまでくると、単に「国家試験対策の是非」を云々するより、本学学生全体の絶対的な「学力不足」が不成績の原因であると指摘せざるを得ない状況である。実はこの兆候は、後に述べる通り、その2年前の第81回国家試験から確実に認められており、このとき有効な対策を講じられなかったことが、その後の成績低迷を決定づけることになった（注4）。すなわち第82回国家試験で顕在化した成績低迷は、第83回～第88回まで増幅され、第84回では総合点で全国平均を実に7.9点も下回る結果となった。このときとられた「対策」とは、「成績不良者」を集めて特別授業（いわゆる特訓）を行い、成績の底上げを行うという、一見理にかなった方法であった。これは、「国家試験の合格率は、合格ライン（ボーダー）付近にいる学生の合否によって大きく左右されるので、これら学生の背中をもう一押しするだけで合格率は飛躍的に上がる筈。なぜなら、成績上位の学生は特段の対策を行わなくても、悠々合格

するのだから」という考え方である。現在、国家試験対策を行っているほぼすべての大学は、多かれ少なかれこのような考えであろうことは容易に推察される。しかしながら、少なくとも本学においては、この方法は全く機能しなかった。何故なのだろうか。

私は常々国家試験の成績は、合格率ではなく科目別平均点あるいは総合平均点で判断すべきであると考えている。これら平均点が全国平均点を下回っていれば、客観的にその大学の成績は悪いといえる。ただし、この値と国家試験合格率・合格率順位は必ずしも連動しないので、問題は複雑となる。例えば、本学における第81回の結果は、合格率87.46%、不合格者数41名である。一方、第92回では、合格率88.72%、不合格者数29名である。合格率順位ではともに全国15位、一般的には「中の上」の成績であり、どちらの場合も国家試験対策は成功しているように見える。実際は一方が極めて危険な状況にあるが、それはどちらであるか、お判りだろうか。

結論から言えば、第81回の結果が極めて危険である。このときの総合平均点は173.81点、全国平均173.57点、その差僅かに0.24点。すなわち、第81回では学生の成績自体が悪かったにも拘わらず、ボーダーの学生が運良く（？）合格したために、合格率の大きな低下を免れたと考えてよい。同様に、続く第82回は総合平均点163.08点、全国平均163.86点、その差－0.78点。このとき、総合点が全国平均を下回っていたにも拘わらず合格率順位が18位と、不成績があまり目立たない範囲にあった。このため多くの先生方はこの結果に殆ど危機感を抱くことなく見過ごしてしまった。これが次の第83回の「突然の」惨敗に繋がるのである。一方第92回では総合平均点は175.70点、全国平均173.09点、そ

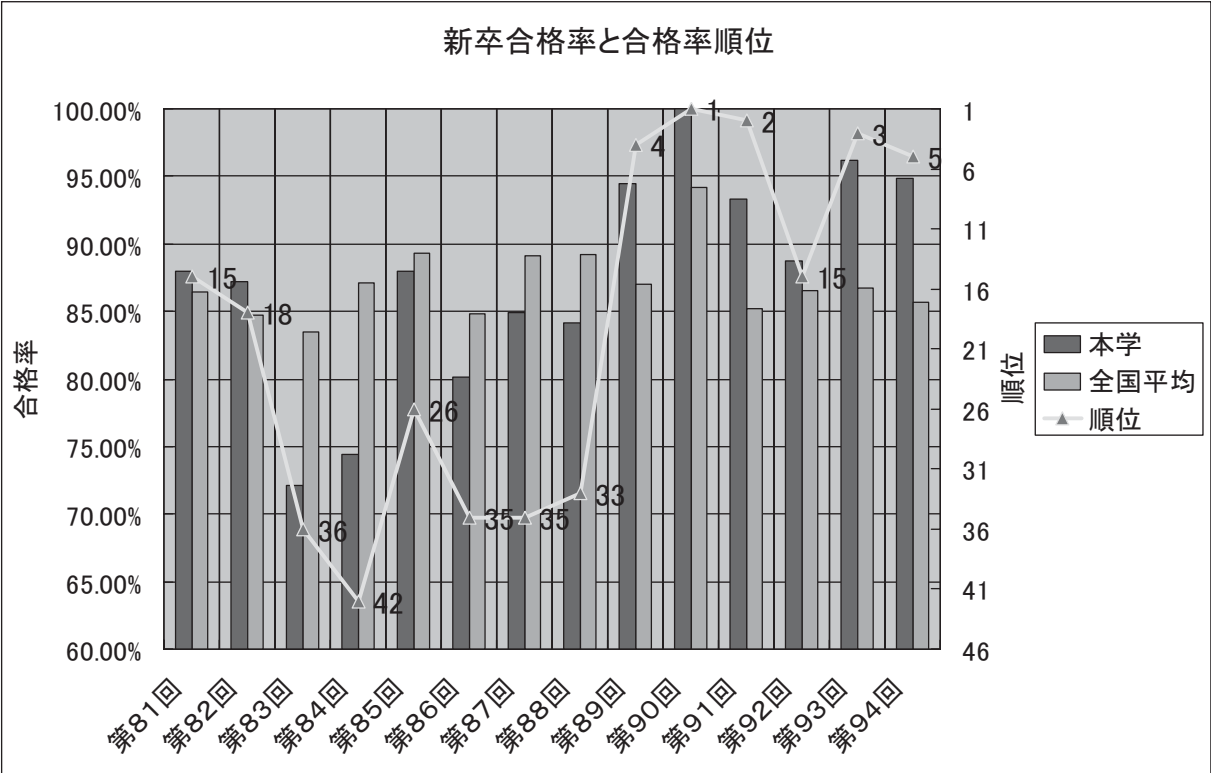
（注4）「大阪薬科大学は、入試では偏差値の高い学生を採っておきながら、卒業時には偏差値を下げて世に送り出している」と陰口をたたかれたのはこの頃である。現在では日本で最も勉強させる薬科大学、国家試験合格率の最も高い薬科大学との定評を得ている。

の差2.61点。すなわち第92回では学生の成績は悪くはなかったが、国試対策の戦略の拙さから合格率の低下を招いたものである。この年の国試対策は、特段の方針転換も行わなかったが、その判断は結果的に正しく、続く第93回、第94回の成績は順調に回復した。では、このような国家試験の総合平均点・各科目別平均点は、どうすれば上げることが出来るのだろうか。

話はいつだって簡単である。平均点を上げるには全学生を対象として満遍なく訓練を行うことである。結果的に学生全体の成績が上がることになる。2003年度から実施した方法は、学習到達度別に成績上位者、成績中位者、成績下位者にクラス分けを行い、これら3クラスには能力に応じて最大限の訓練を行っている。もし成績上位者の成績がより伸びれば、平均点もそれに応じて上昇することになり、その他のクラスにおいても同様である。特にこの数年、本学における成績上位者の成績の伸びは圧倒的で、それにつられて他のクラス（成績中位者、成績下位者）も成績を伸ばすこととなった。結果的に、この方法によって本学の平均点は飛躍的に伸び、昨年の第93回は総合平均点182.15点、全国平均173.05点、その差9.10点で、全国第1位。本年の第94回は、総合平均点178.15点、全国平均171.46点、その差6.69点で、全国第2位であった。このように総合平均点・科目別平均点を全国レベル以上に保っておけば、自ずと合格率・合格率順位も上がることになる。

かつて本学でも行われていた、ボーダー付近あるいはそれ以下の学生のみを対象としていくらか特訓を行っても、成績上位者を抛っておいたのでは、平均点は上がらない。これは紛れもない事実であるし、統計学的に考えても当然の結果である。またこれには心理的な要因も作用し、このような「特訓」が成績不良者への「罰ゲーム」であると少しでも感じさせてしまうと、結果は最悪の方向に向かうことになる。1995年度から2002年度までの「国家試験対策」では、不幸なことにこのような方法を採用したために、全国平均点との差は広がることはあっても、縮まることは一度もなかった。このことは当時の国家試験対策の方針が根本的に間違っていたことを示すものであり、これに対し私たちは真摯に反省しなければならないと考えている。本学では今後とも、国家試験合格率第1位を狙って卒業留年生を大量に輩出させることはしないが、本学を卒業させる以上は、必ず1回で国家試験を合格出来るよう十分訓練を行ってゆきたいと考えている。二年後には新しい制度で薬剤師国家試験が実施される。これには全く新しい方法で対策を講じなければならないが、基本方針はこれまでと同様でよいのではないかと考えている。今後とも関係教職員のご助言とご協力をお願い申し上げる次第である。

図3 最近14年間の薬剤師国家試験新卒合格率と合格率順位



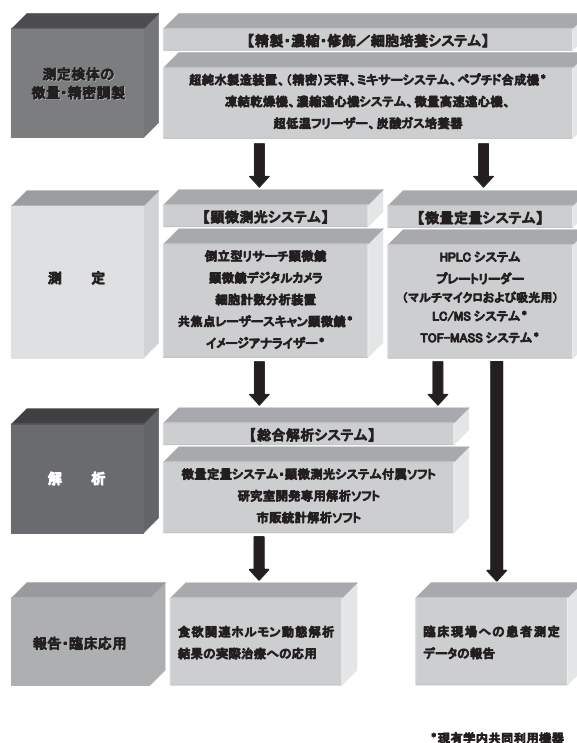
「臨床的食欲関連ホルモン測定・解析システム」の紹介

臨床実践薬学研究室 荒川 行生

当研究室では、ヒト血中の食欲に関連するホルモンの測定法を確立してそれら濃度を系統的に測定し、その結果を患者の治療および指導に反映させることを研究テーマの一つとしている。これは、薬物治療の結果、その副作用として食欲の亢進あるいは減退を来している患者の血液中の食欲関連ホルモン（複数）を測定し、その変動機序の解析、およびこれによる患者の全身状態の詳細把握の可能性を探るものである。本研究の結果は、例えば、臨床的に問題となっている長期の抗がん療法における患者のQOLの改善に寄与することが期待される。本研究のための基礎データとなるホルモン濃度の測定は、主に、免疫学的測定法によるが測定サンプルの調製から測定までを効率的に行うための高速液体クロマトグラフ（HPLC）などのシステムも必要となる（付図参照）。さらに、測定によって得られた結果を解析するための培養細胞系を取り扱う機器も必須である。今回、平成20年度の研究整備計画（私学助成金）として採択されたことより、当研究室内に本研究のためのシステムを整備した。

本システムの主な構成は、サンプル調製用機器（HPLC、濃縮遠心機、微量高速遠心機、凍結乾燥機、超低温フリーザー）、測定用機器（蛍光プレートリーダー、吸光プレートリーダー）、顕微測定用機器（リサーチ顕微鏡、顕微鏡デジタルカメラ）、および細胞培養用機器（炭酸ガス培養器、細胞計数機）である（研究機器のリストは付表参照）。なお、これら主要構成機器は、いずれも、特殊あるいは大型の機器ではなく、一般的に用いられる研究機器である。さらに、本研究室は、全く新規に設立されてかつ間もないこともあり、ごく基本的な実験用器具を含めて研究設備が不足していたため、電子天秤、ミキサー、器具乾燥装置なども本システムに含めて整備を行った。

（付図）臨床的食欲関連ホルモン測定・解析システム構成図



（付表）臨床的食欲関連ホルモン測定・解析システム 構成機器

機器名	
調製用機器	高速液体クロマトグラフシステム
	フラクションコレクター（HPLC 用）
	濃縮遠心機
	微量高速遠心機
	凍結乾燥機
	超低温フリーザー
	超純水製造装置
測定用機器	マルチマイクロプレートリーダー
	グレーティング吸光プレートリーダー
顕微測定用機器	倒立型リサーチ顕微鏡
	顕微鏡デジタルカメラ
細胞培養用機器	炭酸ガス培養器
	細胞計数分析装置

平成 17 年度から、本公開教育講座では「くすりの作用と副作用～薬物治療における安全管理のために～」をテーマに医薬品の適正使用をめぐる様々な問題点を取り上げ、その解決策について討論してまいりました。本年度も引き続き同じテーマで開催することにし、ストレス社会を念頭に置いて、「睡眠障害」「注意欠陥／多動性障害 (AD/HD)」「うつ・不安障害」について、3回にわたって開催します。

平成 21 年度公開教育講座

「薬の作用と副作用～薬物治療における安全管理のために～」

第 51 回 5 月 30 日 (土) 14:00～17:35

開催場所：梅田スカイビルタワーウエスト 36 階

会議室 L・R

①「眠りの科学」

大阪薬科大学 生体防御学研究室

講師 藤森 功 先生

②「睡眠・覚醒とそれにかかわる薬物」

滋賀医科大学 医学部精神医学講座

講師 今井 眞 先生



新型インフルエンザ感染拡大防止のため、受講者にマスク着用を呼びかけ、会場入口には消毒液を設置するなどの対策を行った上で開催しました。



第 52 回 7 月 4 日 (土) 14:00～17:35

開催場所：梅田スカイビルタワーウエスト 36 階

会議室 L・R

①「注意欠陥／多動性障害 (AD / HD) の薬物治療」

京都大学医学部附属病院 精神科神経科

院内講師 岡田 俊 先生

②「大人を困らせる子どもたち

ーアスペルガー症候群と ADHD を中心としてー

大阪医科大学 小児科 鈴木周平 先生

第 53 回 11 月 21 日 (土) 14:00～17:35

開催場所：梅田スカイビルタワーウエスト 36 階

会議室 L・R

①「セロトニン神経系とうつ病、不安障害治療薬」

大阪薬科大学 薬品作用解析学研究室

准教授 大野行弘 先生

②「うつ病・不安障害治療と注意すべき副作用」

大阪医科大学附属病院 精神神経科

医長 堀 貴晴 先生

平成 21 年度市民講座

市民講座委員長 田中 一彦

大阪薬科大学市民講座は、本学における対外的な活動の一環として、医療や福祉の在り方等のご要望に応える為に、活発な講演活動を行ってまいりました。お蔭様をもちまして、本学周辺地域住民の方々との年間行事として定着し、この 5 月には第 27 回の市民講座を開催させていただきました。これもひとえに多くの皆様方のご支援の賜と、関係者一同、心より感謝いたしております。

本年度は、メインテーマを「おくすりと上手に付き合っていますか」とし、より楽しく学習していただける「市民参加型講座」を目指し、第 28 回では、3 大学（本学、大阪医科大学、関西大学）連携事業の一環として、これまで以上に地域社会に貢献できるよう、下記の日程にて開催いたします。

平成 21 年度市民講座

「おくすりと上手に付き合っていますか」

第 27 回 5 月 16 日 (土) 13:00～16:10

1. 「おくすり、ちゃんと飲んでいますか

ー赤ちゃんからお年寄りまでー

大阪薬科大学 薬剤学研究室 講師 宮崎 誠 先生

大阪薬科大学 臨床薬剤学研究室 准教授 井尻好雄 先生

2. 「おくすり、飲み合わせアラカルト

ー2つ以上のおくすりを飲むときはー

大阪薬科大学 臨床薬剤学研究室 助教 加藤隆児 先生

大阪薬科大学 臨床薬剤学研究室 准教授 井尻好雄 先生

第 28 回 (3 大学連携事業) 10 月 17 日 (土)

13:00～16:10

1. 「おくすり、案外知らない副作用」

大阪薬科大学 臨床薬剤学研究室 准教授 井尻好雄 先生

2. 「おくすり、ほうっておくと怖い副作用の初期症状」

虎の門病院 薬剤部長 林 昌洋 先生

3. 3 大学によるパネルディスカッション

また、これまでと同様、「くすりの相談室」「薬用植物園の見学」、さらに今年度から「図書館・資料展示室の見学」も併設開催いたしております。

地元市民の方々はもちろん、本学教職員や学生、ならびにそのご家族の皆様方の本市民講座へのご参加を期待しております。



「怒りはどこへ…？」

先日、外を歩いていて、信号が赤で立ち止まった時のことです。後ろにあるコンビニのほうから二十歳前後でしょうか、若者が数人こちに歩いてきました。信号まで来ると、そのうちの一人がコンビニで買って食べていたのでしょう、手に持っていたどんぶり物の容器と割り箸を思いっきり道路に投げつけました。容器と割り箸は道に散乱しました。しかし当の本人は何事もなかったように仲間としゃべりながら行ってしまいました。私は若干の恐怖と驚きの入り混じった気持ちで、あっけにとられて若者の後姿と投げつけられた容器に目をしていました。

私がびっくりしたのは、ごみを道に投げつけるという行為そのものもそうなのですが、何よりもその若者の投げつけたときの激しさと、次の瞬間の何事もなかったような平然とした様子とのギャップでした。投げつけ方は、それはそれは思いっきりでした。あれは何かひどく怒っているときに物に当たる様子以外の何ものでもありませんでした。なのに次の瞬間、彼はまったく平然とした顔で、怒っているなどどこにも漂わせることなくそこにいて、仲間としゃべりながら行ってしまったのです。あのギャップは一体なんなのでしょう。しばらくの間、私はその場面を頭の中で反芻していました。

人は何か腹が立つことがあったときどうするでしょう。口で文句を言ったり、不機嫌な態度を取ったりして、その場で怒りを表現するというのがストレートな反応でしょうか。相手が謝ってくれたり、あるいは一緒にいる誰かがなだめてくれたりするとなんとか怒りもおさまります。しかし腹が立つことがあってもその場では我慢しなければならないという状況も少なからずあります。その場は我慢して平静にやりすごしても怒りは胸の内に残ります。その場合、後でその出来事を誰かに話して聞いてもらうという人がほとんどじゃないでしょうか。そう、怒りというのはさまざまな感情の中でも強いので、積極的に外に発散しないとなかなかおさまりがつかないものです。怒りの発散の仕方として物に当たるというやり方もあります。物をたたいたり、蹴ったり、壊したりした経験がある人もいでしょう。ただこの方法は自分が痛かったり、片付けが大変だったりして、だいたい後味が悪いものです。結局物に当たったことも含めて後で誰かに話して聞いてもらうかもしれません。

さて先ほどのごみを投げつけた若者はどうだったのでしょうか。やはり何か怒っていたと思います。でも怒りの矛先はコンビニで買って食べたどんぶり物ではなかったと思いますし、信号に苛立ちを覚えたのでもなかったはず。怒りはその場にはない何かに向けられたものだったということです。彼は怒りを直接の相手にぶつけられずにいるのでしょうか。それとももしかしたら怒りの矛先は自分でもはっきりしないのかもしれない。彼

が感じているのは怒りというより漠然とした苛立ちで、何にどうぶつけばいいのかわからないのかもしれない。怒りをぶつける相手を持たないのか、あるいは怒りを表現する術を持たないのか、どちらにしても彼の中にはいつもくすぶっている怒りが充満しているのではないかと想像します。

あの思いっきり投げつけた瞬間は、胸にくすぶっている怒りが噴出した瞬間だったのでしょうか。しかしいつもは表面的には平然と冷めたような顔をして生きているのかもしれない。投げつけた次の瞬間の何事もなかったかの様子は、彼のいつもの顔だったのかもしれない。そこには感情の自然な流れはなく、あたかもスパッと切り取られた感情の断片だけが細い糸で数珠繋ぎになっているかのように見えました。

学生相談室では、学生の皆さんの悩みを相談員が一緒に考え、話し合います。どのようなことでもかまいません。困ったことや気になることがあれば気軽に相談に来てください。

学生相談室

本学では、学生相談室を設け、週に2回、カウンセラー（専門の臨床心理士）が相談を受け付け、学生が抱える問題や悩みに対処しています。



岡 鈴佳相談員



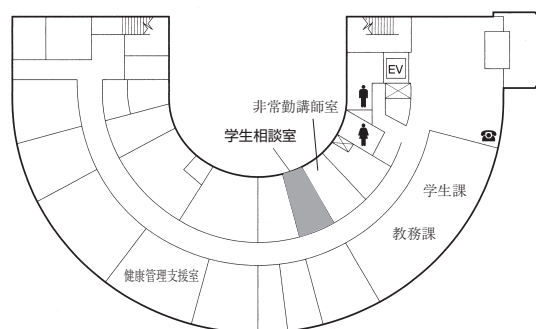
原 祐子相談員

開室時間：毎週火・木曜日 12:00～16:00

TEL：(072) 690-1077（直通）

E-mail：counsel@gly.oups.ac.jp

《場所》A棟1階



広域大学連携による「臨床医工学・情報学」高度人材育成システムの構築

平成20年度の文部科学省公募による「戦略的大学連携支援事業」に、本学を含む関西5大学が連携して応募した「広域大学連携による『臨床医工学・情報学』高度人材育成システムの構築」の課題が採択されました。この取組みは、関西の特色ある5つの私立・国立大学が連携し、学部学生に対する新規学際領域「臨床医工学・情報学」の教育システムを構築しようとするものです。代表校は武庫川女子大学、連携校は奈良先端科学技術大学院大学、大阪電気通信大学、関西大学、そして本学です。

本システムのプログラムは、リベラルアーツ教育、社会教育プログラム、プレプロフェッショナル教育、理系女性人材育成プログラム、高大連携プログラム、その他から構成されており、本学は理系女性人材育成プログラムの担当大学（担当者：石田教授、大桃准教授、清水情報システム管理支援室主任）となり、これまでに「理系女性人材育成シンポジウム」（平成21年1月21日）、「理系女性人材育成セミナー」（平成21年6月27日）、「第2回理系女性人材育成セミナー兼サマースクール」（平成21年8月30・31日）を開催しました。さらに、「第2回理系女性人材育成シンポジウム」を平成21年10月4日に本学において開催する予定です。

戦略的大学連携支援事業とは

「戦略的大学連携支援事業」は、国公立大学間の積極的な連携を推進し、各大学における教育研究資源を有効活用することにより、当該地域の知の拠点として、教育研究水準のさらなる高度化、個性・特色の明確化、大学運営基盤の強化等を図ることを目的としています。（文部科学省ホームページより抜粋）

平成21年度文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」について

表題の公募に対して、本学および大阪医科大学、関西大学が連携して申請した下記の案件が採択されました。

1. 取組名称
「医工学連携科学」教育システムの構築と社会還元～分子から社会までの人間理解～
2. 事業期間
平成21年度～平成23年度
3. 取組概要
3大学が連携し、人間を中心とした新しい自然科学分野となる「医工学連携科学」分野の教育課程を構築し、その教育効果を高めるための教育システムと教育環境を整備します。これにより、「分子から社会までの人間理解」をベースとして広い視野から問題点を発掘し、これに柔軟に対応して解決できる人材を育成し、社会へ貢献します。また、高大連携事業と公開講座・シンポジウムなどの社会連携事業を通じて、高齢地域社会への教育成果の社会還元に寄与します。

石田寿昌教授が日本薬学会学術貢献賞を受賞

石田寿昌教授（薬品物理化学研究室）は、「生体高分子の分子間特異的相互作用と自己重合に関する構造化学的研究と創薬への応用」の研究により、平成21年度日本薬学会学術貢献賞を受賞されました。

本賞は、「薬学の基礎および応用に関し、各専門部門で優れた研究業績をあげ、薬学の発展に顕著な貢献をなした研究者」に対し、日本薬学会より授与されるものです。石田教授は、昭和45年大阪薬科大学物理化学教室助手として研究活動を開始してから現在に至るまで、一貫して生体分子間相互作用様式の構造解析を基盤として、生体分子間認識機構を解明し、その成果を創薬へとつなげる研究展開を推進されました。

これまでに、蛋白質中のトリプトファン残基が基質や補酵素との結合において重要であることを明らかにすべく、一貫してそれらの分子間相互作用を構造化学的に解明され、その成果に対し昭和63年度日本薬学会奨励賞（「満38歳未満で、薬学の基礎および応用に関し、独創的な研究業績をあげつつあり、薬学の将来を担うことが期待される研究者」に授与される）を受賞されています。

現在までに、研究成果の欧文論文発表数は500報に迫る多数に上ります。それらの成果の中で、受賞の対象となった研究テーマは次のとおりです。

- （1）蛋白質合成開始因子eIF4EによるmRNAキャップ認識機構とその機能制御機構の解明

- （2）タウ蛋白質の自己重合機構の解明と阻害低分子の開発
- （3）カテプシンB選択的阻害剤の分子設計と創薬への展開

この度の日本薬学会学術貢献賞は、このような生体機能や疾病の発症機構並びに治療薬の開発において、「構造化学」が果たす役割の重要性を示した功績を称え授与されたものであります。



受賞に伴い、平成21年3月26日から開催された日本薬学会第129年会に先立って3月25日に行われた総会場で授賞式がありました。

また、この受賞を記念して、平成21年5月2日に本学講堂において記念講演会、学生ラウンジにおいて記念祝賀会が開催されました。

平成 20 年度決算

学校法人大阪薬科大学の平成 20 年度決算については、平成 21 年 5 月 26 日（火）に開催された理事会及び評議員会において承認されましたので、資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表・財産目録及び監事監査報告書を掲載し、その概要を説明します。

（資金収支計算書）

平成 20 年度の資金収支は、主な収入源である学生生徒等納付金収入が、予算を 1 億 4,732 万円上回りました。また、主な支出源である人件費支出が、予算を 1 億 2,016 万円下回りました。その結果、次年度繰越支払資金は 39 億 326 万円となりました。

平成 21 年度予算

学校法人大阪薬科大学の平成 21 年度予算については、事業計画及び予算編成方針（平成 21 年度は学生食堂改修・既設学舎の外壁補修・運動場芝生化等引き続きキャンパス整備事業の推進を行う）に基づき、予算委員会の審議を経て編成を行いました。平成 21 年 3 月 24 日（火）に開催された理事会及び評議員会において承認されましたので、資金収支予算書・消費収支予算書を掲載し、資金収支科目を中心に、その概要を説明します。

（総括）

平成 21 年度の収入予算総額（収入の部合計－前年度繰越支払資金）は 43 億 1,355 万円、支出予算総額（支出の部合計－次年度繰越支払資金）は 46 億 5,901 万円であり、差引き 3 億 4,546 万円の支出超過となります。

＜収入の部＞

（学生生徒等納付金収入）

学部新入生は入学定員（300 名）として予算編成し、授業料 16 億 9,560 万円、入学金 1 億 7,050 万円、施設設備費 7 億 8,780 万円他を計上しました。

（補助金収入）

私立大学等経常費補助金 2 億 7,400 万円、施設整備費補助金 2,500 万円他を計上しました。

（事業収入）

附属薬局の収入予算 4 億 5,500 万円他を計上しました。

＜支出の部＞

（人件費支出）

教員人件費は 10 億 4,179 万円、事務職員人件費は附属薬局分を含め 4 億 9,404 万円、退職金は 1,800 万円他を計上しました。

（教育研究経費支出）

B 棟動物関連研究施設修理費、C 棟冷温水発生機オーバーホール費、教務系コンピュータシステムデータ抽出費他、計 7 億 444 万円を計上しました。

（管理経費支出）

法人系コンピュータシステム（Web 財務システム・Web 勤怠システム）、附属薬局費支出他、計 5 億 6,365 万円他を計上しました。

（施設関係支出）

建物支出として、食堂改修工事、未整備研究室整備費他を含め、1 億 6,441 万円を計上しました。

構築物支出として、運動場芝生化一期工事分 2,200 万円を計上しました。

（設備関係支出）

食堂改修工事の内備品費、教務系コンピュータシステムの内ハードウェア分・ソフトウェア分、コンピュータ演習室 PC、講義室音響設備更新他、計 2 億 4,698 万円を計上しました。

平成20年度 資金収支計算書

平成20年 4月 1日から
平成21年 3月31日まで
(単位：円)

収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	2,570,300,000	2,717,620,000	△ 147,320,000
手数料収入	80,600,000	92,972,340	△ 12,372,340
寄付金収入	17,000,000	45,800,000	△ 28,800,000
補助金収入	322,800,000	356,341,397	△ 33,541,397
国庫補助金収入	322,700,000	354,202,000	△ 31,502,000
高槻市結核対策費補助金収入	100,000	139,397	△ 39,397
学術研究振興資金収入	0	2,000,000	△ 2,000,000
資産運用収入	50,000,000	76,175,293	△ 26,175,293
資産売却収入	2,600,000,000	2,853,521,000	△ 253,521,000
事業収入	480,100,000	475,858,411	4,241,589
雑収入	40,200,000	45,068,554	△ 4,868,554
借入金等収入	1,000,000,000	1,000,000,000	0
前受金収入	430,400,000	576,000,000	△ 145,600,000
その他の収入	193,900,000	186,918,745	6,981,255
資金収入調整勘定	△ 594,900,000	△ 773,585,275	178,685,275
前年度繰越支払資金	2,504,600,000	2,655,113,900	△ 150,513,900
収入の部合計	9,695,000,000	10,307,804,365	△ 612,804,365

支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,489,000,000	1,368,831,270	120,168,730
教育研究経費支出	689,600,000	639,734,714	49,865,286
管理経費支出	578,000,000	570,587,162	7,412,838
借入金等利息支出	98,100,000	92,750,850	5,349,150
借入金等返済支出	344,500,000	344,430,000	70,000
施設関係支出	2,396,700,000	2,425,356,973	△ 28,656,973
設備関係支出	542,800,000	259,746,602	283,053,398
資産運用支出	2,600,000,000	801,579,827	1,798,420,173
その他の支出	188,400,000	241,839,710	△ 53,439,710
[予備費]	120,000,000		120,000,000
資金支出調整勘定	△ 120,800,000	△ 340,320,561	219,520,561
次年度繰越支払資金	768,700,000	3,903,267,818	△ 3,134,567,818
支出の部合計	9,695,000,000	10,307,804,365	△ 612,804,365

平成20年度 消費収支計算書

平成20年 4月 1日から
平成21年 3月31日まで
(単位：円)

消 費 収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	2,570,300,000	2,717,620,000	△ 147,320,000
手数料	80,600,000	92,972,340	△ 12,372,340
寄付金	17,000,000	62,226,268	△ 45,226,268
補助金	322,800,000	356,341,397	△ 33,541,397
国庫補助金	322,700,000	354,202,000	△ 31,502,000
高槻市結核対策費補助金	100,000	139,397	△ 39,397
学術研究振興資金	0	2,000,000	△ 2,000,000
資産運用収入	50,000,000	76,175,293	△ 26,175,293
資産売却差額	7,000,000	7,743,000	△ 743,000
事業収入	480,100,000	475,858,411	4,241,589
雑収入	40,200,000	45,068,554	△ 4,868,554
帰属収入合計	3,568,000,000	3,834,005,263	△ 266,005,263
基本金組入額合計	△ 1,998,900,000	△ 1,689,184,146	△ 309,715,854
消費収入の部合計	1,569,100,000	2,144,821,117	△ 575,721,117

消 費 支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	1,462,200,000	1,361,939,410	100,260,590
教育研究経費	1,065,700,000	1,034,503,765	31,196,235
管理経費	613,200,000	604,352,453	8,847,547
借入金等利息	98,100,000	92,750,850	5,349,150
資産処分差額	1,600,000	69,181,387	△ 67,581,387
[予備費]	120,000,000		120,000,000
消費支出の部合計	3,360,800,000	3,162,727,865	198,072,135

当年度消費支出超過額	1,791,700,000	1,017,906,748	
前年度繰越消費収入超過額	1,233,500,000	1,275,017,896	
翌年度繰越消費収入超過額		257,111,148	
翌年度繰越消費支出超過額	558,200,000		

貸借対照表

平成21年 3月31日
(単位：円)

資産の部			
科 目	平成20年度末	平成19年度末	増 減
固定資産	19,385,662,648	17,329,469,007	2,056,193,641
有形固定資産	17,674,168,372	15,416,129,237	2,258,039,135
土地	8,721,420,350	8,721,420,350	0
建物	6,472,376,861	4,329,677,189	2,142,699,672
その他の有形固定資産	2,480,371,161	2,365,031,698	115,339,463
その他の固定資産	1,711,494,276	1,913,339,770	△ 201,845,494
流動資産	4,908,893,633	5,555,063,214	△ 646,169,581
現金預金	3,903,267,818	2,655,113,900	1,248,153,918
その他の流動資産	1,005,625,815	2,899,949,314	△ 1,894,323,499
資産の部合計	24,294,556,281	22,884,532,221	1,410,024,060

基本金の部			
科 目	平成20年度末	平成19年度末	増 減
第1号基本金	19,588,385,138	17,899,200,992	1,689,184,146
第3号基本金	85,000,000	85,000,000	0
第4号基本金	201,000,000	201,000,000	0
基本金の部合計	19,874,385,138	18,185,200,992	1,689,184,146

消費収支差額の部			
科 目	平成20年度末	平成19年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	257,111,148	1,275,017,896	△ 1,017,906,748
消費収支差額の部合計	257,111,148	1,275,017,896	△ 1,017,906,748

負債の部			
科 目	平成20年度末	平成19年度末	増 減
固定負債	2,713,792,679	2,265,114,539	448,678,140
長期借入金	1,922,150,000	1,466,580,000	455,570,000
その他の固定負債	791,642,679	798,534,539	△ 6,891,860
流動負債	1,449,267,316	1,159,198,794	290,068,522
短期借入金	544,430,000	344,430,000	200,000,000
その他の流動負債	904,837,316	814,768,794	90,068,522
負債の部合計	4,163,059,995	3,424,313,333	738,746,662

科 目	平成20年度末	平成19年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	24,294,556,281	22,884,532,221	1,410,024,060

財産目録 平成21年3月31日

(単位：円)

I 資産総額	24,294,556,281
内 基本財産	17,684,818,622
運用財産	6,609,737,659
II 負債総額	4,163,059,995
III 正味財産	20,131,496,286

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	17,684,818,622
土地	59,259.53㎡ 8,721,420,350
建物（付属設備を含む）	35,694.97㎡ 6,472,376,861
図書	88,194冊 1,276,892,971 1,749本
構築物・機器備品	1,954点 1,202,918,305
その他	11,210,135
2 運用財産	6,609,737,659
現金預金	3,903,267,818
その他	2,706,469,841
資 産 総 額	24,294,556,281

区 分	金 額
負債額	
1 固定負債	3,258,222,679
長期借入金	2,466,580,000
その他	791,642,679
2 流動負債	904,837,316
負 債 総 額	4,163,059,995
正 味 財 産（資産総額－負債総額）	20,131,496,286

注記 固定負債長期借入金について

貸借対照表では、平成21年度期中において返済予定のものを、短期借入金としている。

監査報告書

平成21年 5月21日

学校法人 大阪薬科大学
理事長 矢内原千鶴子 殿

学校法人 大阪薬科大学

監事 露口 佳彦

監事 吉田 訓康

私たちは、学校法人大阪薬科大学の監事として、私立学校法第37条第3項並びに寄附行為第33条に基づいて同学校法人の平成20年度（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書）を含め、学校法人の業務及び財産に関し監査を行いました。

監査の結果、私たちは、学校法人の業務及び財産に関する不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。

以 上

収 入 の 部			
科 目	平成21年度予算	平成20年度予算	増 減
学生生徒等納付金収入	2,655,400	2,570,300	85,100
手数料収入	71,700	80,600	△ 8,900
寄付金収入	20,000	17,000	3,000
補助金収入	301,100	322,800	△ 21,700
国庫補助金収入	301,000	322,700	△ 21,700
高槻市結核対策費補助金収入	100	100	0
資産運用収入	25,000	50,000	△ 25,000
資産売却収入	700,000	2,600,000	△ 1,900,000
事業収入	461,500	480,100	△ 18,600
雑収入	25,000	40,200	△ 15,200
借入金等収入	0	1,000,000	△ 1,000,000
前受金収入	419,000	430,400	△ 11,400
その他の収入	217,257	193,900	23,357
資金収入調整勘定	△ 582,400	△ 594,900	12,500
前年度繰越支払資金	3,546,677	2,504,600	1,042,077
収入の部合計	7,860,234	9,695,000	△ 1,834,766

支 出 の 部			
科 目	平成21年度予算	平成20年度予算	増 減
人件費支出	1,575,834	1,489,000	86,834
教育研究経費支出	704,446	689,600	14,846
管理経費支出	563,651	578,000	△ 14,349
借入金等利息支出	76,100	98,100	△ 22,000
借入金等返済支出	544,500	344,500	200,000
施設関係支出	186,410	2,396,700	△ 2,210,290
設備関係支出	246,986	542,800	△ 295,814
資産運用支出	700,000	2,600,000	△ 1,900,000
その他の支出	224,355	188,400	35,955
[予備費]	20,000	120,000	△ 100,000
資金支出調整勘定	△ 183,269	△ 120,800	△ 62,469
次年度繰越支払資金	3,201,221	768,700	2,432,521
支出の部合計	7,860,234	9,695,000	△ 1,834,766

消 費 収 入 の 部			
科 目	平成21年度予算	平成20年度予算	増 減
学生生徒等納付金	2,655,400	2,570,300	85,100
手数料	71,700	80,600	△ 8,900
寄付金	20,000	17,000	3,000
補助金	301,100	322,800	△ 21,700
国庫補助金	301,000	322,700	△ 21,700
高槻市結核対策費補助金	100	100	0
資産運用収入	25,000	50,000	△ 25,000
資産売却差額	3,900	7,000	△ 3,100
事業収入	461,500	480,100	△ 18,600
雑収入	25,000	40,200	△ 15,200
帰属収入合計	3,563,600	3,568,000	△ 4,400
基本金組入額合計	△ 751,942	△ 1,998,900	1,246,958
消費収入の部合計	2,811,658	1,569,100	1,242,558

消 費 支 出 の 部			
科 目	平成21年度予算	平成20年度予算	増 減
人件費	1,557,834	1,462,200	95,634
教育研究経費	1,183,631	1,065,700	117,931
管理経費	593,709	613,200	△ 19,491
借入金等利息	76,100	98,100	△ 22,000
資産処分差額	4,800	1,600	3,200
[予備費]	20,000	120,000	△ 100,000
消費支出の部合計	3,436,074	3,360,800	75,274

当年度消費支出超過額	624,416	1,791,700	
前年度繰越消費収入超過額	20,384	1,233,500	
翌年度繰越消費収入超過額	△ 604,032	△ 558,200	

平成21年度 科学研究費補助金採択状況

区分	職 名	氏 名	研究種目	研 究 課 題	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)
継続	学 長	千熊 正彦	基盤研究 (C)	シスプラチン耐性がん有効な複核白金錯体の多様な核酸認識	500	150
	教 授	石田 寿昌	基盤研究 (C)	タウ蛋白質のタングル形成阻害剤の開発：認知症治療・予防薬開発のための基盤研究	700	210
	教 授	松村 靖夫	基盤研究 (C)	虚血性臓器障害と交感神経：エンドセリンおよびアンジオテンシン系の役割と性差	600	180
	教 授	辻坊 裕	基盤研究 (C)	細菌のキチン分解機構に関する研究	800	240
	教 授	土井 光暢	基盤研究 (C)	β アミノ酸導入によるエラスチンフラグメントの医療基剤への応用	500	150
	准教授	恩田 光子	基盤研究 (C)	DPCを用いた臨床経済的評価の病院マネジメントへの応用に関する研究	400	120
	講 師	藤井 忍	基盤研究 (C)	スフィンゴミエリナーゼの触媒機構の分子論	1,400	420
	助 教	平田 雅彦	基盤研究 (C)	癌の早期診断と抗癌剤の薬効予測可能な新規シグナル伝達分子イメーシング薬剤の開発	800	240
	客員研究員	梶本 哲也	基盤研究 (C)	環境に優しい「無臭ベンゼンチオール」をグリコシル化反応に利用する糖鎖合成法の開発	1,100	330
新規	客員教授	小林 祐次	基盤研究 (B)	終末糖化産物の受容体 (RAGE) を標的とする糖尿病合併症の予防・治療薬の探索	10,600	3,180
	教 授	天野富美夫	基盤研究 (C)	サルモネラの乾燥耐性獲得機構に関する研究	1,800	540
	教 授	春沢 信哉	基盤研究 (C)	リボザイムの機能解明と乳癌抑制作用を持つイミダゾールC-ヌクレオシドの合成	1,000	300
	講 師	藤森 功	基盤研究 (C)	脂質メディエーターによる脂肪細胞分化抑制の分子基盤	1,600	480
	助 教	箕浦 克彦	基盤研究 (C)	認知症治療薬の開発を目指したタウ蛋白質の構造機能解析と自己凝集機構の解明	1,600	480
合 計	14件				23,400	7,020

研究管理支援室

1. 実験動物慰霊祭について

平成20年12月11日(木)12時30分より講堂(現C105講義室)において、日頃実験動物を取り扱っている教職員、学生等約300名の参加のもと、実験動物慰霊祭が執り行われました。

実験動物慰霊祭は参加者全員で黙祷をおこなった後、掛見教授(動物関連研究施設運営委員長)の挨拶、安田准教授(動物関連研究施設管理責任者)の利用状況の報告があり、最後に全員で献花を行い、哀悼の意を捧げました。

2. 動物実験について

平成20年度の本学における動物実験の概要は、以下のとおりです。

- (1) 実験従事者(教員、大学院学生、および研究所所属学部学生等)：研究者268名
学部学生実習生(1年次生および3年次生)
- (2) 教育・研究において使用した実験動物：総数10,224匹(ウサギ、モルモット、マウス、ラット等)

学費納付書の送付について

学費納付書は、毎年、前期分は4月初旬に、後期分は10月初旬にご自宅へ郵送しています。納付期日は、次のとおりです。

前期分学費	4月16日から 4月30日
後期分学費	10月16日から10月30日

なお、納付金を滞納し、督促を受けても所定期日までに納付しない者は除籍となります(学部：大阪薬科大学学則第17条、大学院：大阪薬科大学大学院学則第28条)ので、ご留意ください。納付が遅れる特別な事情がある方は、大学(学生課)に事前にご連絡ください。

学位授与

【博士（課程）】

博士（薬学）男子 1 名 合計 1 名
（平成21年3月14日付）

博第21号 博士（薬学）白井 僚一（生化学）
ロイシンリッチリピート構造をもつ血清タンパク質
に関する研究
（平成21年6月30日付）

【博士（論文）】

論博第55号 博士（薬学）長田 裕臣
光学活性クラウンエーテルによるアミノ酸のD/L
識別機構の解明
（平成21年3月14日付）

論博第56号 博士（薬学）宮崎 杏奈
ピラジノン環誘導体をはじめとするペプチドミメ
イクスの構造活性相関に関する研究
（平成21年3月14日付）

【修士】

修士（薬学）男子 25 名 女子 29 名 合計 54 名
（平成21年3月14日付）

【学士】

学士（薬学）男子 111 名 女子 179 名 合計 290 名
薬学科 145 名（男子52名、女子93名）
生命薬学科 145 名（男子59名、女子86名）
（平成21年3月14日付）

平成21年度 行事予定＜大学院＞

＜平成21年＞

4.3（金）入学式
4.8（水）健康診断（男子）
4.9（木）健康診断（女子）
4.13（月）前期（前半）特論開始
健康診断
4.20（月）前期特論選択科目履修届提出締切 午後3時（教
務課）
5.9（土）創立記念日
6.1（月）臨床実務研修報告会
6.4（木）前期（後半）特論開始
7.15（水）前期特論終了
9.14（月）学内企業セミナー（研究・臨床開発・MR職等）
9.25（金）後期（前半）特論開始
9.29（火）後期特論選択科目履修届提出締切 午後3時（教
務課）
10.16（金）大学院特待奨学生選考（申請者発表会）
11.9（月）後期（後半）特論開始
12.21（月）後期特論終了

＜平成22年＞

1.18（月）平成22年度博士後期課程入学試験出願受付
～1.25（月）
2.4（木）平成22年度博士後期課程入学試験
2.16（火）修士学位論文提出期限 午後1時（教務課）
2.17（水）平成22年度博士後期課程入学試験合格者発表
3.2（火）修士学位論文発表会
～3.3（水）
3.12（金）平成21年度修士課程修了者発表（教務課）
3.20（土）学位記授与式

平成21年度 行事予定<学部>

<平成21年>

4.3 (金)	入学式 第94回薬剤師国家試験合格者発表(厚生労働省)
4.6 (月)	新入生ガイダンス
4.7 (火)	校医講演・新入生健康診断・アドバイザー面談
4.8 (水)	前期授業開始(1年次生～4年次生) 健康診断(新入生以外の学生・職員の男子)
4.9 (木)	健康診断(新入生以外の学生・職員の女子)
4.13 (月)	健康診断(新入生以外の学生)
4.14 (火)	前期選択科目履修届提出締切(1～4年次生) 午後3時(教務課)
5.9 (土)	創立記念日
5.15 (金)	新入生歓迎会(五月祭)[午後臨時休講]
6.6 (土)	学友会球技大会
6.24 (水) ～6.25 (木)	第1回薬学総合演習総合試験(旧課程4年次生)
7.15 (水)	前期授業終了(1～4年次生)
7.16 (木)	前期授業予備日
7.22 (水) ～7.31 (金)	前期定期試験(1～3年次生)
7.23 (木) ～8.1 (土)	前期定期試験(4年次生)
8.3 (月)	前期定期試験(1～3年次生)欠席届提出締切 午後1時(教務課)
8.4 (火)	前期定期試験(4年次生)欠席届提出締切 午後1時(教務課)
8.4 (火) ～8.5 (水)	CBT 体験テスト(4年次生)
8.27 (木)	前期再試験受験者発表(1～4年次生)
8.31 (月)	平成22年度編入学試験(H方式)
9.2 (水) ～9.11 (金)	前期再試験(1～4年次生) 9月5日(土)を含む
9.8 (火)	平成22年度編入学試験(H方式)合格者発表
9.14 (月)	後期授業開始(1～4年次生) 学内企業セミナー(研究・臨床開発・MR 職等) (大学院1年次生、4年次生他)
9.17 (木)	月曜日振替授業(1～4年次生)
9.24 (木)	特別再試験受験者発表(旧課程4年次生) 後期選択科目(1～4年次生)履修届提出締切 (教務課)午後3時
9.29 (火) ～9.30 (水)	第2回薬学総合演習総合試験(旧課程4年次生)
9.30 (水)	9月学位記授与式(旧課程4年次生)
10.21 (水) ～12.9 (水)	特別再試験(旧課程4年次生)この期間の水曜日
10.27 (火) ～10.28 (水)	第3回薬学総合演習総合試験(旧課程4年次生)
10.29 (木)	第44回大薬祭準備(午後臨時休講:旧課程4年次生を除く)
10.30 (金) ～11.1 (日)	第44回大薬祭等(金曜日臨時休講)
11.2 (月)	第44回大薬祭後片付け 月曜日振替授業(4年次生)
11.7 (土)	平成22年度指定校制推薦入学試験(R方式)
11.14 (土)	平成22年度公募制推薦入学試験(S方式)・帰国生徒特別選抜入学試験(K方式)
11.24 (火) ～11.25 (水)	第4回薬学総合演習総合試験(旧課程4年次生)
11.25 (水)	平成22年度公募制推薦入学試験(S方式)・指定校制推薦入学試験(R方式)・帰国生徒特別選抜入学試験(K方式)合格者発表
12.9 (水)	実験動物慰霊祭

12.14 (月)	後期授業終了(4年次生)
12.21 (月) ～12.22 (火)	第5回薬学総合演習総合試験(旧課程4年次生)
12.21 (月) ～12.24 (木)	後期定期試験(薬科学科4年次生)
12.23 (水) ～12.25 (金)	CBT 本試験(4年次生)
12.25 (金)	後期定期試験(薬科学科4年次生)欠席届提出 締切(教務課)午後1時 月曜日振替授業(1～3年次生) 後期授業終了(1～3年次生)

<平成22年>

1.7 (木) ～1.8 (金)	後期授業予備日
1.7 (木)	後期再試験 受験者発表(旧課程4年次生)
1.12 (火) ～1.21 (木)	後期定期試験(1～3年次生)
1.12 (火) ～1.15 (金)	後期定期試験(薬学科4年次生)
1.12 (火) ～1.14 (木)	後期再試験(旧課程4年次生)
1.15 (金)	平成22年度大学入試センター試験実施準備(午後)
1.16 (土) ～1.17 (日)	平成22年度大学入試センター試験[センター試験利用入学試験(C方式)]
1.18 (月)	後期定期試験(薬学科4年次生)欠席届提出締切(教務課)午後1時
1.22 (金)	後期定期試験(1～3年次生)欠席届提出締切(教務課)午後1時
1.24 (日)	OSCE 本試験(4年次生)
1.29 (金)	後期再試験 受験者発表(4年次生) 特別再試験受験者発表(旧課程4年次生)
2.1 (月)	平成22年度一般入学試験Ⅰ(F方式)[本学・駿台予備学校大阪南校・RCC文化センター(広島)・高松商工会議所会館]
2.2 (火) ～2.4 (木)	後期再試験(4年次生)
2.4 (木) ～2.5 (金)	薬学総合演習正規試験Ⅰ(旧課程4年次生)
2.5 (金)	後期再試験 受験者発表(1～3年次生)
2.6 (土)	平成22年度センター試験利用入学試験(C方式)・一般入学試験Ⅰ(F方式)合格者発表
2.9 (火)	平成22年度一般入学試験Ⅱ(G方式)(本学・駿台予備学校大阪南校・広島国際会議場・サラーシティ浜松)
2.10 (水) ・2.12 (金)	特別再試験(旧課程4年次生)
2.12 (金) ～2.23 (火)	後期再試験(1～3年次生)2月20日(土)を含む
2.15 (月)	特別再試験 受験者発表(4年次生)
2.15 (月) ～2.16 (火)	薬学総合演習正規試験Ⅱ(旧課程4年次生)
2.17 (水)	平成22年度一般入学試験Ⅱ(G方式)合格者発表
2.18 (木) ～2.22 (月)	特別再試験(4年次生)2月20日(土)を含む
2.20 (土) ～2.21 (日)	薬剤師国家試験全国統一模擬試験(旧課程4年次生)
2.24 (水)	CBT 再試験(4年次生)
2.27 (土)	OSCE 再試験(4年次生)
3.2 (火)	卒業生発表(教務課)
3.6 (土) ～3.7 (日)	第95回薬剤師国家試験(厚生労働省)
3.16 (火)	進級者発表・未修得科目発表(教務課)
3.20 (土)	学位記授与式
3.30 (火)	第95回薬剤師国家試験合格者発表(厚生労働省)

平成20年度 大学院修士課程・博士課程修了者 論文題目

修士課程

氏名	専攻分野	論文題目
浅野 旭彦	分析化学	VEGF 受容体を指標とする新規癌診断用アントラニル酸誘導体の合成と基礎的検討
東 剛志	衛生薬学	UV - Fe ²⁺ /Fe ³⁺ - H ₂ O ₂ 系による PCBs の化学分解 - PCBs に汚染された電気絶縁油とその他の有機塩素化合物への応用 -
池田 知穂	臨床薬学	ピロガロールレッド系色素—金属錯体を用いる亜硝酸イオンの吸光光度定量法の開発研究
磯野 里絵	臨床薬学	o-カルボキシフェニルフルオロン—パラジウム（II）錯体を用いる製剤中のファモチジン及びその関連薬物の定量法に関する研究
井上 敦子	薬用資源学	セリ科生薬、白朮独活のフェノール性成分に関する研究
今西 亮太*	衛生薬学	共役リノール酸の脂肪細胞分化誘導機序に関する研究
入江 貴子	臨床薬学	LPS 投与ラットにおける Capsaicin の CYP3A2 に及ぼす影響
上田 泰之	有機薬科学	二本鎖 DNA を反応場とするアルドール反応の制御
後北 桃子	薬剤学	高血圧治療薬併用時の薬効における相互作用の速度論解析
梅木 正嗣	臨床薬学	ビルビン酸脱水素酵素：糖尿病による酵素活性低下に及ぼすチアミンの影響
大頭 麻理子*	臨床薬学	Streptozotocin 誘発糖尿病ハムスターモデルにおけるキマーゼの病態生理学的役割とキマーゼ阻害薬の効果の検討
太田井 寛	薬剤学	脂質過剰摂取時における体内脂質レベルと肝および小腸 CYP3A 活性との関係
大船 晴彦	有機薬科学	ヨウ化ピラゾールの菌頭クロスカップリング反応と新規2H-インダゾール合成法の開発
梶間 紀光	臨床薬学	糖尿病とトランススクラーゼ活性に関する研究
勝田 陽介	分析化学	陽電荷を有する制がん性白金（II）二核錯体による DNA 高次構造の変化
川野 寛樹	分析化学	シスプラチン治療時のシグマレセプター機能変化と分子イメージングによる薬効評価に関する基礎的検討
國崎 麻里	薬剤学	PEGylation が難溶性低分子薬物の溶解性および吸収性に与える影響について
高津 千裕*	臨床薬学	血液透析患者の腎性貧血治療における darbepoetin alfa の有用性
孝田 哲也	衛生薬学	大腸癌細胞の増殖に対する脂質関連物質の影響
小淵 修平	薬理学	腎虚血再灌流障害における γ-aminobutyric acid の保護効果
酒井 康充	薬剤学	難溶性薬物の消化管内溶解挙動の解析
定松 舞子	臨床薬学	CCl ₄ 誘発性肝障害と capsaicin の効果
下治理 沙	薬用資源学	ジンチョウゲ科生薬、了哥王のフェノール性成分に関する研究
杉江 真理子	生物科学	海洋細菌 <i>Pseudoalteromonas piscicida</i> O-7株由来 <i>gImS</i> 遺伝子の解析
杉野 恵津子	生物物理化学	tau タンパク質微小管結合ドメイン MBD の自己凝集機構および凝集阻害機構の研究
杉本 有加	分析化学	シスプラチンとオキサリプラチンの培養がん細胞に対する作用の比較
鈴木 聖子	臨床薬学	Capsaicin の血管反応性に関する検討
竹内 健悟	生物物理化学	Tau タンパク質微小管結合ドメイン（MBD）の R3リビートペプチドにおける Tyrosine が与える構造特性とフィラメント形成能
田村 愛	衛生薬学	サルモネラの環境耐性と病原性を制御する新たな調節因子、SEp22に関する研究
丹田 雅明*	衛生薬学	<i>Salmonella</i> Enteritidis の増殖及び病原性関連因子 SEp22発現に及ぼす栄養因子の影響
塚部 章子	衛生薬学	Tリンパ腫細胞株 EL-4細胞の培養上清由来のマクロファージ活性化因子の研究
中尾 紀文	生物科学	<i>Acinetobacter baumannii</i> 感染時の肺浸潤細胞の役割
中西 雅彦	衛生薬学	ビスフェノール A による脂肪細胞分化促進作用とそのメカニズムの解明
西浦 千里	生物物理化学	Tau タンパク質微小管結合ドメイン（MBD）の自己凝集機構の解析 - MBD の自己凝集におけるジスルフィド結合の役割と Tyrosine 残基の重要性 -
西岡 有佳	臨床薬学	[フルオレセイン系色素—銀（I）—アデニン] 三元錯体を利用するヨウ化物イオン及びグアニン測定法に関する研究
西田 光希	生物科学	<i>Vibrio vulnificus</i> の鉄獲得機構の解明
西出 まみ*	臨床薬学	Pravastatin が cyclosporine A の血中濃度に及ぼす影響に関する検討
原田 亜季	臨床薬学	アシタバ含有カルコン誘導体を用いる選択的チタン（IV）測定法に関する研究
平田 智子	薬理学	腎部分摘除による慢性腎不全の発症と進展における NADPH oxidase の役割
平野 雅予	臨床薬学	スギ花粉症の発症機序—スギ花粉抗原の鼻粘膜下投与後、いつ、どこで、だれが総 IgE を産生するのか？—
福田 慎太郎	有機薬科学	不斉酸化を目指した新規有機セレン触媒の開発と過酸化水素水を用いた酸化反応
藤田 有紀	生物物理化学	ヒト由来タンパク質生成開始因子 eukaryotic initiation factor (eIF) 4A と eIF4G の相互作用研究 - eIF4A と eIF4G の各ドメイン間の結合様式の解明 -
松下 ももか	臨床薬学	パニルフルオロンを用いるコバルト（II）、シアノコバラミン並びにスベルミンの吸光光度定量法の開発研究
松村 有里子*	臨床薬学	基礎的研究：2,4-ジヒドロキシベンゾイル安息香酸を用いるレゾルシノール類の蛍光光度法に関する研究 臨床的研究：エルロチニブの適正使用に関する検討 - 添付文書及び Phase II からの情報と臨床経験との比較 -
松本 千佳	薬理学	間歇的低酸素曝露による左室リモデリングの発症・進展におけるキマーゼの役割
真鍋 光晶*	臨床薬学	トランススクラーゼ活性調節に関する研究：大腸菌を用いた Transketolase 発現系の構築
三木 康裕	生物物理化学	好熱性放線菌 <i>Streptomyces thermoviolaceus</i> OPC-520株由来糖結合タンパク質 BxIE とキシロピオース複合体の結晶化と X線結晶構造解析の試み
水木 晃治	有機薬科学	細胞毒性天然物 pericosineA-D の合成研究
宮本 篤史	有機薬科学	4-Aza-4-deoxypodophyllotoxins の合成研究
室賀 康秀	薬用資源学	海水魚由来真菌の産生する新規 azaphilone 類縁体の絶対構造に関する研究
元岡 大祐	生物物理化学	モデルペプチドを用いたコラーゲン構造の熱安定化機構の解明
森 愛弥	衛生薬学	スキルス胃がん細胞の細胞障害性を指標にした免疫化学療法の展開
吉田 弥生*	薬用資源学	グレープフルーツ中のクマリン類に関する研究
米田 真司	薬剤学	セリ科植物由来 Furanocoumarin の P-gp 阻害活性に関する研究～血液—脳関門（BBB）に発現する P-gp に対する影響～

*印は、臨床薬学コース

博士課程

中原 良介	臨床薬学	光化学プローブを利用する生体低分子化学種の測定法の開発研究
-------	------	-------------------------------

入試課

平成21年度 進学説明会

開催日：平成21年6月19日（金）
場 所：ホテルグランヴィア大阪
参加校：57校
参加者数：58名



平成21年度 大学院入試結果

入試種別	博士前期（修士）課程			計
	推薦入試	一般入試（一次）	一般入試（二次）	
募集人員	16	24	若干名	40
志 願 者	15	71	11	97
受 験 者	15	68	11	94
合 格 者	15	62	11	88
入 学 者	15	50	8	73

入試種別	博士後期（博士）課程
	一般入試
募集人員	5
志 願 者	1
受 験 者	1
合 格 者	1
入 学 者	1

平成21年度 入試結果

入試種別	公募制推薦入試 (S方式)	センター試験利用入試 (C方式)	一般入試 I (F方式)
募集人員	80	20	70
志 願 者	535	614	478
受 験 者	534	613	464
合 格 者	190	226	194
入 学 者	91	23	75

平成22年度 入試概要

入試種別	公募制推薦入試 (S方式)	センター試験利用入試 (C方式)	一般入試 I (F方式)
募集人員	80名	20名	70名
出願開始日	平成21年11月 2日(月)	平成22年 1月 8日(金)	平成22年 1月 8日(金)
出願締切日	平成21年11月10日(火) 消印有効	平成22年 1月15日(金) 消印有効	平成22年 1月25日(月) 消印有効 平成22年 1月26日(火) のみ持参可
入学試験日	平成21年11月14日(土)	平成22年 1月16日(土) 平成22年 1月17日(日)	平成22年 2月 1日(月)
合格発表日	平成21年11月25日(水)	平成22年 2月 6日(土)	平成22年 2月 6日(土)
入学手続締切日	1次 平成21年12月 1日(火) 2次 平成21年12月22日(火) (2段階方式)	1次 平成22年 2月15日(月) (2段階方式) 2次 平成22年 3月23日(火) (2段階方式)	1次 平成22年 2月15日(月) (2段階方式) 2次 平成22年 3月23日(火) (2段階方式)
試験場	本 学		本学・駿台予備学校大阪南校・ RCC文化センター(広島)・高松商工会議所会館
選考内容 (時間・配点)	[調査書] 150点 (理科、外国語の評定平均値 各25点、 数学、全体の評定平均値 各50点) 適性確認 [理 科] 75分 150点 化学Ⅰ、生物Ⅰ から1科目を選択する [外国語] 60分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング	センター試験利用科目 [理 科] 200点 化学Ⅰ、生物Ⅰ、物理Ⅰ のうち最高得点科目を採用し、 それを2倍する [外国語] 200点 英語(リスニングを含む) 200点 ※記述式(200点満点)とリスニング (50点満点)の合計得点を200点 満点に換算する [数 学] 200点 数学Ⅰ・数学A 100点 数学Ⅱ・数学B 100点 本学の個別学力検査等は実施しない	[理 科] 90分 100点 化学(化学Ⅰ、化学Ⅱ「選択分野を含む」) 生物(生物Ⅰ、生物Ⅱ「選択分野を含む」) から1科目を選択する [外国語] 75分 75点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [数 学] 75分 75点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A 数学B(数列、ベクトル) [調査書] 150点 (理科、外国語、数学の評定平均値 各25点、 全体の評定平均値75点)
判 定	適性確認等及び 提出書類を総合して判定する	センター試験の成績及び 提出書類を総合して判定する	学力試験等及び 提出書類を総合して判定する
入学検定料	35,000円	20,000円	35,000円
備考	現役に限る		

一般入試Ⅱ (G方式)	帰国生徒特別選抜入試 (K方式)	編入試 (H方式)
80	若干名	5
814	2	4
653	2	4
261	0	0
115	0	0

一般入試Ⅱ (G方式)	帰国生徒特別選抜入試 (K方式)	編入試 (H方式)
80名	若干名	5名
平成22年 1月 8日(金)	平成21年10月26日(月)	平成21年 8月20日(木)
平成22年 2月 3日(水) 消印有効 平成22年 2月 4日(木) のみ持参可	平成21年10月30日(金) 消印有効	平成21年 8月26日(水) 消印有効
平成22年 2月 9日(火)	平成21年11月14日(土)	平成21年 8月31日(月)
平成22年 2月17日(水)	平成21年11月25日(水)	平成21年 9月 8日(火)
1次 平成22年 2月24日(水) (2段階方式) 2次 平成22年 3月23日(火)	平成21年12月22日(火) (一括方式)	1次 平成21年 9月14日(月) (2段階方式) 2次 平成21年12月22日(火) (2段階方式)
本学・駿台予備学校大阪南校・ 広島国際会議場・サーラシティ浜松	本 学	本 学
[理 科] 90分 100点 化学(化学Ⅰ、化学Ⅱ「選択分野を含む」) 生物(生物Ⅰ、生物Ⅱ「選択分野を含む」) から1科目を選択する	適性確認 [理 科] 75分 150点 化学Ⅰ、生物Ⅰ から1科目を選択する [外国語] 60分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング	[英 語] 45分 50点 [数 学] 45分 50点 [基礎有機化学] 60分 100点 [基礎生物学] 60分 100点 [基礎化学] 60分 100点 [面 接]
[外国語] 90分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング		
[数 学] 90分 100点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A 数学B(数列、ベクトル)	[面 接] 学習意欲、日本語能力を確認する 薬学を修める上で必要な分野を試 問する	
学力試験及び 提出書類を総合して判定する	適性確認、面接の結果及び 提出書類を総合して判定する	学力試験、面接の結果及び 提出書類を総合して判定する
35,000円	35,000円	35,000円
		2年次に編入

学生課

○平成21年度 学友会執行委員会

執行委員長	松山 育美	(ソフトテニス部)
副執行委員長	福島 奈津美	(剣道部)
総務局長	井宮 朋子	(卓球部)
厚生局長	曲田 拓司	(ラグビー部)
広報渉外局長	村木 聡	(E.S.S. 部)
体育局長	林 莉紗	(有志)
文化局長	和田 高明	(フォークソング部)

○平成21年度 大葉祭実行委員会

実行委員長	中 綾美	(ソフトテニス部)
副実行委員長	廣瀬 文紀	(旅行写真部)
総務部長	三戸岡 彩	(バドミントン部)
イベント部長	林 淳祐	(硬式野球部)
リサイクル部長	日下部 照子	(E.S.S. 部)
装飾部長	松岡 美樹	(アルペンスポーツクラブ)
渉外部長	岸保 有里奈	(茶道部)
渉内部長	平田 翔子	(旅行写真部)

○大葉祭「Trick or Treat ! ～真っ昼間のハロウィン～」が開催されます。

本年度の第44回大葉祭は、「Trick or Treat ! ～真っ昼間のハロウィン～」をテーマに、平成21年10月30日(金)～11月1日(日)の日程で開催されます。当日は、文化系クラブの発表会を中心に、大葉祭の定番となっている「薔薇祭」や、フリーマーケットなど様々なイベントが行われる予定です。学生達の楽しい企画にご期待ください。

平成21年度 胸部X線受診状況(間接/直接撮影) 4/7～9、4/13～18

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	M 1	M 2	D 1	D 2	D 3	総計	職員
男	142 146	77 144	72 152	57 123	46 46	38 40	/	/	/	432 651	63 80
女	203 206	60 229	84 187	70 170	27 27	41 42	1 1	0 1	/	486 863	22 30
計	345 352	137 373	156 339	127 293	73 73	79 82	1 1	0 1	/	918 1,514	85 110
受診率	98.0% <97.3>	96.7% <43.0>	46.0% <42.7>	43.3% <88.9>	100% <98.8>	96.3% <96.4>	100% <0>	0% <->	- <33.3>	60.6% <71.6>	77.3% <65.4>

< > 内は平成20年度

*結核予防法改正に伴い、「胸部X-P撮影」は学部・大学院とも新入生のみ必須受診項目、他の学年は選択受診項目に変更。

*職員にはパートタイマー/アルバイトを含みます。

平成21年度 学生定期健康診断受診状況(全項目受診者) 4/7、8、9、13

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	M 1	M 2	D 1	D 2	D 3	総計
男	140 146	102 146	90 152	67 123	46 46	38 40	/	/	/	483 651
女	202 206	169 229	101 187	89 170	25 27	42 42	1 1	0 1	/	629 863
計	342 352	271 373	191 339	156 293	71 73	80 82	1 1	0 1	/	1,112 1,514
受診率	97.2% <97.0>	72.7% <60.3>	56.3% <50.3>	53.2% <87.7>	97.3% <98.8>	97.6% <96.4>	100% <0>	0% <->	- <33.3>	73.4% <76.8>

< > 内は平成20年度

*結核予防法改正に伴い、「胸部X-P撮影」は学部・大学院とも新入生のみ必須受診項目、他の学年は選択受診項目に変更。

平成20年度 健康管理支援室利用状況 (平成20年4月1日～平成21年3月31日)

月	利 用 者 別		利 用 内 容 別						計
	学 生	職 員	外科系	内科系	健康指導・相談	休 養	転 送	証 明	
4	87	8	35	25	16	18	1	0	95
5	271	11	35	31	138	19	0	59	282
6	457	23	43	43	328	18	0	48	480
7	191	8	29	25	30	16	2	97	199
8	38	1	7	0	18	2	0	12	39
9	138	9	24	29	26	21	2	45	147
10	112	17	20	17	31	17	0	44	129
11	62	18	9	24	11	17	0	19	80
12	59	18	17	24	12	10	0	14	77
1	63	8	2	21	24	6	0	18	71
2	61	17	8	18	20	1	0	31	78
3	34	25	7	22	2	0	0	28	59
計	1,573	163	236	279	656	145	5	415	1,736
	< 1,449 >	< 139 >	< 202 >	< 270 >	< 576 >	< 131 >	< 5 >	< 404 >	< 1,588 >

< > 内は平成19年度

「外科系」はガーゼ交換、湿布交換を含む。

「健康指導・相談」は検尿、血圧測定、身長・体重測定等を含む。

「証明」は健康診断受診証明の作成・発行。

分煙と禁煙に関する行動計画

タバコが及ぼす悪影響から人を守ることが、世界的な流れになっています。我が国では、未成年者の喫煙は、「未成年者喫煙禁止法」（明治33年公布）により、禁じられています。近年では、「健康増進法」（平成14年公布）により、人が集まる場所では受動喫煙（他人のタバコの煙を吸わされること）を防止することが義務化され、また、「タバコ規制枠組み条約」（平成15年締結）により、政府はタバコの煙から国民を保護するための措置を取ることとされています。

本学では、平成8年に現在地に移転して以来、キャンパス内を原則禁煙とし、喫煙を屋外の灰皿を設置した場所に制限する分煙方式とし、漸次喫煙場所を減らしてきました。この度、社会が禁煙の方向に急速に進む流れを受け、本学の取り組みを全面的に見直しました。

禁煙対策には、①タバコを吸わないこと、②受動喫煙を防止すること、の双方を視野に入れなければなりません。本学学生に対するアンケート調査によれば、現在タバコを吸っているのは約4%（男性7.7%、女性1.5%）で、徐々に禁煙が進んでいるようです。教職員の禁煙も、急速に進んでいます。しかし、医療人を養成する大学と

して、学生と教職員のすべてに、より厳しい自己管理と規制が求められます。

この度、以下の行動計画を策定し、キャンパス内の分煙と禁煙を積極的に推進することになりました。

第1段階：平成21年度後期から、分煙を徹底する。

a) 喫煙場所を3カ所（B棟南側外部階段B1F、C棟北側外部階段2Fと3Fの間の踊場、大学会館入口北側）とする。

b) 未成年者に対して禁煙を指導する。

第2段階：平成24年度から、キャンパス内を全面禁煙とする。

学生に対しては、入学時のガイダンスや1年次科目「健康科学」の授業時に禁煙を指導するとともに、健康管理支援室から啓発ポスターなどで情報を発信します。また、全教職員が学内の状況に注意を払い、違反者の指導にあたります。

この行動計画は、本学の構成員のすべてに適用されます。なお、実態に応じて、行動計画が変更されることがあります。

単車通学について

単車は便利な乗り物ですが、事故の危険性や騒音による迷惑などの理由から、本学では単車通学を原則禁止してきました。単車通学の申請があった場合に、厳しい許可条件のもとで審査し、特に必要と認められる一部の学生に限り許可してきました。

駐車場が完成したのに伴い、平成21年10月1日より、原則禁止に変更はないものの、学生のみなさんの通学事情を考慮して、許可条件を緩和することになりました。

1. 許可条件は、①正保証人の同意書の提出、②免許証および自賠責保険証の提示、③騒音等につながる改造がないことなどです。

原則として、以上の3条件を満たせば許可が得られます。許可条件や手続きの詳細は、学生部の掲示板と配布物で案内します。

2. 許可は1年ごとの更新とし、登録料として年額1,000円が必要です。

許可申請は、必ず大学が指定する期間に手続きしてください。本年度の申請受付は、7月8日から8月27日に行いました。本年度に限り、登録料は無料です。なお、本年度すでに現行制度で許可を受けている人は、申請し直す必要はありません。

3. 違反者には、厳しく対処します。

10月1日以降、無許可乗り入れ、学外および区画外駐車、騒音や危険運転等の迷惑行為に対し、処罰規程にしたがって、厳しく対処します。

4. できるだけ単車通学を自粛してください。

事故の危険性や騒音による迷惑などの理由から、単車通学を自粛するのが望ましいことは、言うまでもありません。

5. 交通事故の責任も迷惑行為の責任も、あくまで利用者自身にあります。

交通事故や迷惑行為に対し、大学は責任を負えません。社会規範がそうであるように、交通事故の責任も迷惑行為の責任も、あくまで利用者自身が負うことを肝に銘じてください。なお、不幸にして通学途中で事故に遭った場合に、「学生教育研究災害傷害保険」の給付対象となります（ただし、無許可通学者には給付されません）。

なお、自動車通学については、引き続き、特別の事由がある場合と大学院学生（人数制限がある）に限り認められます。

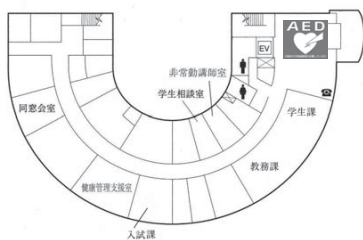
AEDの設置場所



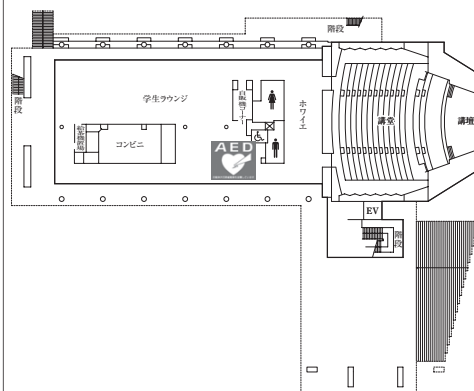
AEDは誰でも使えます。AEDは操作方法を音声で指示し、電気ショックが必要か否かを判断してくれます。

『AEDだけでは助かりません』心肺蘇生法（胸骨圧迫と人工呼吸）とAEDの操作で救命ができるのです。

A棟1階



D棟1階

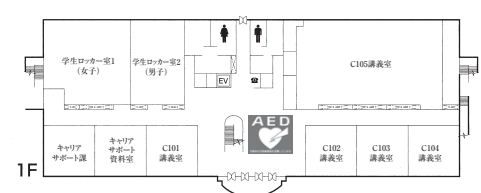


2009年3月に設置されました。

B棟1階



C棟1階



体育館1階



* 誰の身にも起こりうる突然の心停止状態、主な直接の原因は心室細動です。これは心筋に電気的刺激が不規則に伝導するために起きます。心筋がケイレン状態となり全身への血液循環が困難となり心停止状態になります。このケイレン状態を正常に戻すためには心臓

への電気ショックが必要になります。心停止で意識を失ったまま10分間放置すると生存退院率（救命率）10%以下になります。電気ショックは1分1秒でも早く行わなければなりません。この電気ショックを与える機器がAED（自動体外式除細動器）です。

心電図検査

* 健康管理支援室（旧保健室）では、毎年6月下旬から2週間程度かけて心電図検査を実施しています。主に体育系クラブに所属している学生が受検します。運動中の不慮の事故を防ぐとともに、正しい診断を行い『学校生活管理指導表』に基づいた指導を行うためのスク

リーニング検査です。要観察・要精査の学生には校医の指導により必要なフォローアップを行っています。運動時間の長短にかかわらず心臓には予備能力以上に負荷がかかります。積極的に受検して、自己の心機能を知り健康管理に役立ててください。

心電図検査受検者数の推移（平成17年度から平成21年度）

		平成17年度			平成18年度			平成19年度			平成20年度			平成21年度		
合 計 (学生のみ)		282	男 122	女 160	325	男 155	女 170	322	男 158	女 164	314	男 168	女 146	321	男 172	女 149
	実施期間	H17.6/20～7/1			H18.6/19～6/30・7/6			H19.6/25～7/6			H20.6/16～6/30			H21.6/22～7/3・8		
実施場所		保 健 室			保 健 室			健康管理支援室			健康管理支援室			健康管理支援室		
体 育 系 ク ラ ブ ・ サ ー ク ル	硬式庭球	34	男 17	女 17	34	男 15	女 19	31	男 14	女 17	37	男 15	女 22	35	男 13	女 22
	ソフトテニス	33	男 17	女 16	50	男 24	女 26	43	男 21	女 22	55	男 26	女 29	51	男 17	女 34
	バスケットボール	6	男 3	女 3	5	男 4	女 1	14	男 2	女 12	24	男 9	女 15	9	男 6	女 3
	バレーボール	35	男 11	女 24	35	男 15	女 20	35	男 15	女 20	34	男 17	女 17	33	男 16	女 17
	バドミントン	39	男 14	女 25	36	男 11	女 25	50	男 16	女 34	45	男 14	女 31	44	男 19	女 25
	ハンドボール	32	男 12	女 20	41	男 14	女 27	32	男 16	女 16	30	男 14	女 16	27	男 11	女 16
	卓 球	0	男 0	女 0	5	男 5	女 0	2	男 1	女 1	0	男 0	女 0	1	男 1	女 0
	硬式野球	2	男 2	女 0	15	男 15	女 0	22	男 22	女 0	25	男 25	女 0	27	男 27	女 0
	ラグビー	5	男 5	女 0	2	男 2	女 0	4	男 4	女 0	6	男 6	女 0	9	男 8	女 1
	サッカー	13	男 13	女 0	9	男 9	女 0	21	男 21	女 0	21	男 21	女 0	23	男 23	女 0
	陸上競技	0	男 0	女 0	4	男 2	女 2	2	男 0	女 2	0	男 0	女 0	0	男 0	女 0
	剣 道	12	男 6	女 6	10	男 5	女 5	9	男 6	女 3	8	男 4	女 4	10	男 6	女 4
	柔 道	12	男 7	女 5	11	男 8	女 3	5	男 4	女 1	6	男 5	女 1	2	男 2	女 0
	アルペンスポーツ	1	男 1	女 0	1	男 0	女 1	10	男 4	女 6	9	男 5	女 4	20	男 9	女 11
	弓 道	10	男 2	女 8	3	男 0	女 3	0	男 0	女 0	0	男 0	女 0	5	男 0	女 5
	フィールドウォーカーズ	1	男 1	女 0	10	男 5	女 5	0	男 0	女 0	0	男 0	女 0	0	男 0	女 0
	テニスサークル レボリューション	22	男 5	女 17	35	男 12	女 23	21	男 3	女 18	1	男 1	女 0	0	男 0	女 0
文化系クラブ そ の 他		25	男 6	女 19	19	男 9	女 10	21	男 9	女 12	4	男 2	女 2	25	男 14	女 11

キャリアサポート課

1. 平成21年度文部科学省

「大学教育・学生支援推進事業【テーマB】学生支援推進プログラム」について

表題の公募に対して、本学キャリアサポート課が申請した下記の案件が採択されました。

- (1) [取組みの名称] 学生の適性に応じた多様なキャリアサポート
- (2) [取組みの概要] 本学では学生へのキャリア教育に重点を置き、「学生一人ひとりの適性・能力・価値観に合ったサポート」を可能にすべくキャリアサポート課を中心にきめ細かに全学的な取組みを行い、目的達成に努力してきました。本プログラムにおいては、こうした取組みを更に効率的、合理的、効果的に進めるべく、キャリア教育の教材の充実、企業等の情報収集の拡大と学生への伝達効率の向上により学生一人ひとりの職業選択の適正化を目指します。
- (3) [取組みの期間] 平成21年度～平成23年度

参考：[大学教育・学生支援推進事業【テーマB】学生支援推進プログラムとは]

大学教育・学生支援推進事業は、各大学等から申請された、各大学における学士力の確保や教育力向上のための取組の中から、達成目標を明確にした効果が見込まれる取組を選定し、広く社会に情報提供するとともに、重点的な財政支援を行うことにより、我が国の高等教育の質保証の強化に資することを目的としています。

2. キャリアサポート課および同資料室の移転について

平成21年4月より、キャリアサポート課および同資料室がA棟1階からC棟1階へ移転し、学生達の利便性が更に高まりました。キャリアサポート課には学生面談室、応接室を新設し、ビデオカメラシステムも導入しました。広々とした資料室には検索専用パソコンを大幅に増設し、学生一人ひとりの細かい要求にも応えられる体制を整えました。また、資料室には大型スクリーンやAV機器も充実しており、40名までの講演やグループディスカッションの練習、面接会場として幅広い用途で利用することが可能です。

キャリアサポート部委員会、キャリアサポート課としては、施設・設備面の充実と共にキャリアサポートガイダンス、職種紹介学内企業セミナー内容の充実、きめ細やかな職種別情報提供の必要性が示唆され、今後さらに、キャリアカウンセラーを中心に個人面接を充実させて学生一人ひとりの興味、価値観、能力に応じた進路・就職支援をより一層強化していきたいと考えています。

3. 「サンデー毎日」(2009年8月2日号)への就職関連記事の掲載について

「サンデー毎日」2009年8月2日号(毎日新聞社)「企業の評価の高い大学学部系統別就職率ランキング」において、大阪薬科大学は、薬学部の部門で、2009年度の就職率が全国3位(近畿圏1位)として紹介されました。ランキングは各大学の発表した今春の就職状況を基に、学部就職率(一部大学院を含んだデータ)を掲載しています。

本学では、低学年次からのキャリア教育に重点を置いており、キャリアサポート課を中心に、学生一人ひとりの興味・能力・価値観に合ったきめ細やかなサポートを全学をあげて行っており、その成果として以下のような結果となりました。

《薬学部》

順位	大学(所在地)	学部名	就職率	卒業者数	決定者数	就職進学者数	大学院
1	新潟薬科大(新潟)	薬学部	98.8	186	166	18	
2	九州保健福祉大(宮崎)	薬学部	98.6	102	73	38	
3	大阪薬科大(大阪)	薬学部	98.0	344	242	97	
4	神戸薬科大(兵庫)	薬学部	97.7	256	212	39	
5	明治薬科大(東京)	薬学部	97.3	375	289	78	
6	東北薬科大(宮城)	薬学部	97.1	395	340	45	
7	東京薬科大(東京)	薬学部	96.2	400	278	111	
8	就実大(岡山)	薬学部	96.1	127	99	24	
9	星薬科大(東京)	薬学部	95.9	264	188	68	
10	千葉科学大(千葉)	薬学部	95.9	196	162	27	

2009年8月2日号「サンデー毎日」76ページより



1. 図書館利用者アンケートについて

平成21年6月から今後の図書館運営を検討する上での資料とするため「図書館利用者アンケート」を実施しています。現在までに寄せられている主な意見・要望は次のとおりです。

<図書館（所蔵資料・サービス）について>

- ① 学術雑誌のうち電子ジャーナルを増やしてほしい。
- ② 新着図書・雑誌・DVD コーナーのスペースを拡充し、閲覧期間を延長してほしい。
- ③ DVD の本数と種類を増やしてほしい。
- ④ 今話題になっている単行本、新書、文庫の購入を増やしてほしい。
- ⑤ 情報検索コーナーのパソコンで何台か Word が利用できるようにしてほしい。
- ⑥ 土曜日の開館時間を延長してほしい。

これらのアンケート結果を参考に、図書館では今後ともより良い学習環境づくりに努めていきますので、引き続きアンケートにご協力をお願いします。

2. 「学術欧文雑誌」及び「学術雑誌目録」の電子化について

図書館では、図書予算の効率的な運用及び教育研究活動の効率化を図るため、2006年から毎年、学術欧文雑誌の購入にあたって冊子体の一部を電子ジャーナルに順次移行しています。2008年現在では、ACS（米国化学会）、Elsevier 社、Nature 出版グループ、Ovid 社、Springer 社、Wiley - Blackwell 社の各コンソーシアムに参加して多くの電子ジャーナルが閲覧できる環境にな

り、飛躍的に利便性が向上しています。

また、このたび「学術雑誌目録」の電子化が完了しました。これまでは、本学所蔵の学術雑誌（欧文・和文）に関する情報については、毎年「学術雑誌目録」（冊子体）で提供してきましたが、2009年から図書館のホームページに掲載し多くの方が簡単に利用できるように改善しました。

2009年の電子ジャーナルについては、有料、無料にかかわらずリンク機能を貼り付けましたので、閲覧したいジャーナルの窓口まで瞬時にたどり着くことができるようになり、利用者から好評をいただいています。

なお、2009年の冊子体所蔵の有無も分かりやすく表示していますので、教員だけでなく学部特別研究生や大学院学生も大いに活用してください。



平成20年度図書館利用状況

区分	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成21年 1月	2月	3月	計
学部学生	3,154	3,937	7,677	14,439	3,215	6,824	5,026	5,200	7,274	8,762	7,016	1,035	73,559
大学院学生	549	475	521	393	176	314	392	319	322	306	430	193	4,390
職員	234	232	216	263	89	194	192	181	210	172	167	154	2,304
学外者 (卒業生等)	0	1	4	0	1	3	2	0	2	2	0	0	15
計	3,937	4,645	8,418	15,095	3,481	7,335	5,612	5,700	7,808	9,242	7,613	1,382	80,268

教員研究業績 (2008 年)

(2008.1.1 ~ 12.31)

1. 研究学術論文

著 者	標 題	掲 載 誌
宇佐美吉英, 芝野真喜雄, 他	Antitumor agents. 261. 20 (S) -protopanaxadiol and 20 (S) -protopanaxatriol as antiangiogenic agents and total assignment of ¹ H NMR spectra	J. Nat. Prod., 71, 478-481(2008)
宇佐美吉英, 他	5-Hydroxymethyl-2-furfural, a clinical trials agent for sickle cell anemia, and its mono/di-glucosides from classically processed steamed Rehmanniae Radix	J. Nat. Med., 62, 164-167 (2008)
宇佐美吉英, 水木晃治, 市川隼人, 有本正生	Determination of the absolute configuration of the cytotoxic natural product pericosine D	Tetrahedron : Asymmetr., 19, 1460-1463 (2008)
浦田秀仁, 藤森麻美, 青野知永, 山川友美, 原田絵美, 赤木昌夫	Regio- and diastereo-selectivity of montmorillonite-catalyzed oligomerization of racemic adenosine 5'-phosphorimidazole	Nucleos.Nucleot. Nucleic Acids, 27, 421-430 (2008)
和田俊一, 人羅康匠, 田中麗子, 浦田秀仁	Translocation of an Aib-containing peptide through cell membranes	Bioorg. Med. Chem. Lett., 18, 3999-4001 (2008)
浦田秀仁, 西岡有佳, 鳥峯理文, 松村靖夫, 和田俊一, 他	First chemical synthesis of antioxidative metabolites of sesamin	Chem.Pharm. Bull., 56, 1611-1612 (2008)
米山弘樹, 下田綾子, 荒木理佐, 栗原拓史, 春沢信哉, 他	Efficient approaches to S-alkyl-N-alkylisothioureas: Syntheses of histamine H ₃ antagonist clobenpropit and its analogues	J. Org. Chem., 73, 2096-2104 (2008)
近藤太郎, 谷口雅彦, 芝野真喜雄, 馬場さみ江, 他	Coumarins from the roots of <i>Ligusticum multivittatum</i>	J. Nat. Med., 62, 87-90 (2008)
坂口 実, 馬場さみ江, 他	Comparative Examination of Anti-proliferative Activities of (-)-Epigallocatechin Gallate and (-)-Epigallocatechin against HCT116 Colorectal Carcinoma Cells	Biol. Pharm. Bull., 31, 79-84 (2008)
馬場さみ江, 他	Anti-tumor actions of major component 3'-O-acetylhamadul of <i>Angelica japonica</i> roots through dual actions, anti-angiogenesis and intestinal intraepithelial lymphocyte activation	Cancer Lett., 265, 84-97 (2008)
谷口雅彦, 馬場さみ江, 他	Antitumor actions of a chromone glucoside cnidimoside A isolated from <i>Cnidium japonicum</i>	J. Nat. Med., 62, 308-313 (2008)
芝野真喜雄, 谷口雅彦, 安田正秀, 馬場さみ江, 他	Antioxidant constituents in the dayflower (<i>Commelina communis</i> L.) and their α -glucosidase-inhibitory activity	J. Nat. Med., 62, 349-353 (2008)
中森輝恵, 谷口雅彦, 芝野真喜雄, 馬場さみ江, 他	Chemical studies on the root of <i>Heracleum candicans</i> WALL	J. Nat. Med., 62, 403-412 (2008)
馬場さみ江, 他	Antitumor activities of synthetic and natural stilbenes through antiangiogenic action	Cancer Sci., 99, 2083-2096 (2008)
谷口雅彦, 馬場さみ江, 他	Antitumor and antimetastatic actions of anthrone-C-glucoside, cassialoin isolated from <i>Cassia garrettiana</i> heartwood in colon 26-bearing mice	Cancer Sci., 99, 2336-2348 (2008)
山口智晴, 田中麗子, 他	Chemopreventive effects of a serratane-type triterpenoid, 3 α -methoxyserrat-14-en-21 β -ol (PJ-1), against rat lung carcinogenesis	Food Chem. Toxicol., 46, 1882-1888 (2008)
田路さやか, 山田剛司, 和田俊一, 田中麗子, 他	Lanostane-type triterpenoids from the sclerotia of <i>Inonotus obliquus</i> possessing anti-tumor promoting activity	Eur. J. Med. Chem., 43, 2373-2379 (2008)
田中麗子, 他	Inotodiol, a lanostane triterpenoid, from <i>Inonotus obliquus</i> inhibits cell proliferation through Caspase-3-dependent apoptosis	Anticancer Res., 28, 2691-2696 (2008)
田中麗子, 中田智子, 山口智晴, 和田俊一, 山田剛司, 他	Potential anti-tumor-promoting activity of 3 α -hydroxy-D : A-friedooleanan-2-one from the stem bark of <i>Mallotus philippensis</i>	Planta Med., 74, 413-416 (2008)

著 者	標 題	掲 載 誌
山田剛司, 土井光暢, 重田寛文, 室賀康秀, 細江紗季, 沼田 敦, 田中麗子	Absolute stereostructures of cytotoxic metabolites, chaetomugilins A-C, produced by a <i>Chaetomium</i> species separated from a marine fish	Tetrahedron Lett., 49, 4192-4195 (2008)
田中麗子, 他	Cancer chemopreventive activity of "rosin" constituents of <i>Pinus</i> spez. And their derivatives in two-stage mouse skin carcinogenesis test	Phytomedicine, 15, 985-992 (2008)
田路さやか, 山田剛司, 田中麗子	Three new lanostane triterpenoids, inonotsutriols A, B, and C, from <i>Inonotus obliquus</i>	Helv. Chim. Acta, 91, 1513-1524 (2008)
室賀康秀, 山田剛司, 沼田 敦, 田中麗子	Chaetomugilins, new selectively cytotoxic metabolites, produced by a marine fish-derived <i>Chaetomium</i> species	J. Antibiot., 10, 615-622 (2008)
奥山佳代子, 西浦千里, 水嶋史絵, 箕浦克彦, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Linkage-dependent contribution of repeat peptides to self-aggregation of three- or four-repeat microtubule-binding domains in tau protein	FEBS J., 275, 1529-1539 (2008)
箕浦克彦, 奥山佳代子, 西浦千里, 水嶋史絵, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Role of each repeat peptide in aggregation of tau microtubule-binding domain	Peptide Science, 2007, 59-62 (2008)
美馬将司, 河合千佳, 朴 琴順, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Crystallization and preliminary X-ray crystallographic analysis of Ca^{2+} -free primary Ca^{2+} -sensor of $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchanger	Acta Cryst., F64, 1125-1127 (2008)
友尾幸司, 向井康博, 尹 康子, 石田寿昌, 他	Crystal structure and molecular dynamics simulation of ubiquitin-like domain of murine parkin	Biochim. Biophys. Acta, 1784, 1059-1067 (2008)
服部正幹, 杉野恵津子, 箕浦克彦, 尹 康子, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Different inhibitory response of cyanidin and methylene blue for filament formation of tau microtubule-binding domain	Biochem. Biophys. Res. Commun., 374, 158-163 (2008)
石田寿昌, 他	Guest-dependent conformation of 18-crown-6 tetracarboxylic acid : Relation to chiral separation of racemic amino acids	Chirality, 20, 820-827 (2008)
水野敦雄, 尹 康子, 藤田有紀, 安孫子美美, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Importance of C-terminal flexible region of 4E-binding protein in binding with eukaryotic initiation factor 4E	FEBS Lett., 582, 3439-3444 (2008)
大石宏文, 石田寿昌, 他	Polyamines stabilize left-handed Z-DNA : Using X-ray crystallographic analysis, we have found a new type of polyamine (PA) that stabilizes left-handed Z-DNA	Biochem. Biophys. Res. Commun., 366, 275-280 (2008)
大石宏文, 戸塚佳孝, 石田寿昌, 他	The crystallographic study of left-handed Z-DNA d (CGCGCG) ₂ and thermine complexes crystallized at various temperatures and at various concentration of cations	Biochem. Biophys. Res. Commun., 368, 382-387 (2008)
大石宏文, 石田寿昌, 他	γ -Cyclodextrin as inhibitor of the precipitation reaction between berberine and glycyrrhizin in decoctions of natural medicines : Interaction studies of cyclodextrins with glycyrrhizin and glycyrrhetic acid by ¹ H-NMR spectroscopy and molecular-dynamics calculation	Helv. Chim. Acta, 91, 1614-1624 (2008)
西村光広, 小林祐次, 他	Crystal structure of human ribosomal protein L10 core domain reveals eukaryote-specific motifs in addition to the conserved fold	J. Mol. Biol., 377, 421-430 (2008)
小林祐次, 他	NMR structure of an intracellular third loop peptide of human GABA _B receptor	Biochem. Biophys. Res. Commun., 366, 681-684 (2008)
小林祐次, 他	Characterization of the interaction between recombinant human peroxin Pex3p and Pex19p : identification of TRP-104 IN Pex3p as a critical residue for the interaction	J. Biol. Chem., 283, 6136-6144 (2008)
小林祐次, 他	Stabilization mechanism of cytochrome C ₅₅₂ from a moderately thermophilic bacterium, <i>hydrogenophilus thermoluteolus</i>	Biosci. Biotechnol. Biochem., 72, 2103-2109 (2008)
藤田直子, 小林祐次, 他	Solution structure of the variable-type domain of the receptor for advanced glycation end products : new insight into AGE-RAGE interaction	Biochemistry, 47, 12299-12311 (2008)
土井光暢, 一宮祐子, 浅野晶子	H-D-Phe-D-Pro-Gly methyl ester hydrochloride monohydrate	Acta Cryst., E64, o704 (2008)

著 者	標 題	掲 載 誌
佐藤卓史, 齊藤睦弘, 千熊正彦, 他	Determination of albumin in bronchoalveolar lavage fluid by flow-injection fluorometry using chromazunol S	Biol. Pharm. Bull., 31, 336-339 (2008)
佐藤卓史, 梶栗隆司, 齊藤睦弘, 千熊正彦, 他	Determination of desmosine in bronchoalveolar lavage fluids by time-resolved fluoroimmunoassay	Clin. Chim. Acta, 387, 113-119 (2008)
千熊正彦, 他	Ion-exchange resins modified with metal-porphyrin as a catalysis for oxidation of epinephrine (adrenaline)	Catal. Commun., 9, 224-228 (2008)
齊藤睦弘, 馬場淑子, 松永 藍, 佐藤卓史, 千熊正彦	DNA damages induced by selenite in the presence of glutathione	Biomed. Res. Trace Elements, 19, 88-91 (2008)
齊藤睦弘, 馬場淑子, 佐藤卓史, 千熊正彦	DNA damages induced by selenite in the presence of glutathione – Reactive oxygen species involved in DNA damages –	Biomed. Res. Trace Elements, 19, 317-320 (2008)
平田雅彦, 森 哲也, 梅田卓也, 安倍 毅, 山本智也, 大桃善朗	Evaluation of Radioiodinated 1-[2- (3,4-Dimethoxyphenyl) ethyl]-4- (2-iodophenyl- propyl) piperazine as a Tumor Diagnostic Agent with Functional Sigma Receptor Imaging by Single Photon Emission Computed Tomography	Biol. Pharm. Bull., 31, 879-883 (2008)
島田亮子, 大蔵直樹, 林 恭三, 井上晴嗣, 池田 潔, 他	Subunit structure and inhibition specificity of α -type phospholipase A ₂ inhibitor from <i>Protobothrops flavoviridis</i>	Toxicon, 51, 787-796 (2008)
藤井 忍, 他	Aplysinopliides A-C, Cytotoxic Sesterterpenes from the Marine Sponge <i>Aplysinopsis digitata</i>	J. Nat. Prod., 71, 1089-1091 (2008)
土屋孝弘, 箕浦克彦, 宮本勝城, 宇佐美吉英, 辻坊 裕, 他	Purification and determination of the chemical structure of the tyrosinase inhibitor produced by <i>Trichoderma viride</i> strain H1-7 from a marine environment	Biol. Pharm. Bull., 31, 1618-1620 (2008)
宮本勝城, 辻坊 裕, 他	Chitinase inhibitor allosamidin promotes chitinase production of <i>Streptomyces</i> generally	Int. J. Biol. Macromol., 43, 13-19 (2008)
馬場きみ江, 坂口 実, 他	Comparative examination of anti-proliferative activities of (–)-epigallocatechin gallate and (–)-epigallocatechin against HCT116 colorectal carcinoma cells	Biol. Pharm. Bull., 31, 79-84 (2008)
坂口 実, 他	A novel anti-plant viral protein from coelomic fluid of the earthworm <i>Eisenia foetida</i> : Purification, characterization and its identification as a serine protease	Comp.Biochem. Phys. B, 151, 381-385 (2008)
三野芳紀, 天野富美夫, 他	Determination of organotin in human breast milk by gas chromatography with flame photometric detection	J. Health Sci., 54, 224-228 (2008)
山沖留美, 木村捷二郎, 大津尚美, 筑田康裕, 三野芳紀, 他	Effectiveness of electron beam decontamination and change of essential oil components in fennel	Radioisotopes, 57, 367-373 (2008)
山沖留美, 木村捷二郎, 他	Free radical kinetics on irradiated fennel	Radiat. Phys. Chem., 77, 1057-1061 (2008)
加藤隆児, 藤原あすさ, 川井崇子, 森口 純, 中川真智子, 津倉由里, 天野富美夫, 井尻好雄, 田中一彦, 他	Changes in digoxin pharmacokinetics treated with lipopolysaccharide in Wistar rats	Biol. Pharm. Bull., 31, 1221-1225 (2008)
加藤隆児, 徳永友佳, 川井崇子, 津倉由里, 天野富美夫, 井尻好雄, 田中一彦, 他	Effects of CpG-DNA from <i>Escherichia coli</i> on digoxin pharmacokinetics	Biol. Pharm. Bull., 31, 1226-1229 (2008)
加藤隆児, 山下哲史, 森口 純, 中川真智子, 津倉由里, 天野富美夫, 井尻好雄, 田中一彦, 他	Changes of midazolam pharmacokinetics in Wistar rats treated with lipopolysaccharide : relationship -between total CYP and CYP3A2	Innate Immunity, 14, 291-297 (2008)
三野芳紀, 天野富美夫, 他	Determination of organotin in human breast milk by gas chromatography with flame photometric detection	J. Health Sci., 54, 224-228 (2008)
藤森 功, 他	Enhancement of prostaglandin D ₂ production through cyclooxygenase-2 and lipocalin-type prostaglandin D synthase by upstream stimulatory factor 1 in human brain-derived TE671 cells under serum starvation	Gene, 426, 72-80 (2008)

著 者	標 題	掲 載 誌
西真由美, 田村 愛, 天野富美夫, 他	キシロオリゴ糖によるサルモネラ感染の阻害機構の研究	Bacterial Adherence & Biofilm, 22, 75-80 (2008)
藤本陽子, 米村寿光, 佐久間寛	Stearic acid potentially modulates the activity of cyclooxygenase-1, but not cyclooxygenase-2, in the form of its CoA ester	Prostag. Leukot. Ess. Fatty Acids, 78, 81-84 (2008)
佐久間寛, 藤田淳子, 中西雅彦, 和田俊一, 藤本陽子	Disulfide S-monoxides convert xanthine dehydrogenase into oxidase in rat liver cytosol more potently than their respective disulfides	Biol. Pharm. Bull., 31, 1013-1016 (2008)
藤本陽子, 米村寿光, 佐久間寛	Role of linoleic acid hydroperoxide preformed by cyclooxygenase-1 or -2 on the regulation of prostaglandin formation from arachidonic acid by the respective enzyme	J. Clin. Biochem. Nutr., 43, 65-68 (2008)
岩永一範, 他	The Influence of CYP3A5 Expression on the Extent of Hepatic CYP3A Inhibition Is Substrate-Dependent : An in Vitro-in Vivo Evaluation	Drug Metabo. Dispos., 36, 146-154 (2008)
山下知佳, 松本千佳, 郭 哲俊, 藤井貴和子, 平田智子, 松村靖夫, 他	Role of gp91 ^{phox} -containing NADPH oxidase in left ventricular remodeling induced by intermittent hypoxic stress	Am. J. Physiol., 294, H2197-H2203 (2008)
山下知佳, 田澤尚子, 大喜多守, 松村靖夫	Exaggerated renal pathology of partial ablation-induced chronic renal failure in eNOS deficient mice	Biol. Pharm. Bull., 31, 1029-1031 (2008)
中野大介, 車塚大輔, 松村靖夫, 他	Dietary sesamin suppresses aortic NADPH oxidase in DOCA salt hypertensive rats	Clin. Exp. Pharmacol. Physiol., 35, 324-326 (2008)
高山淳二, 高岡昌徳, 山本真也, 野原麻美, 大喜多守, 松村靖夫	Actinonin, a meprin inhibitor, protects ischemic acute kidney injury in male but not in female rats	Eur. J. Pharmacol., 581, 157-163 (2008)
田和正志, 福本大起, 大喜多守, 松村靖夫	Role of endogenous endothelin-1 in post-ischemic cardiac dysfunction and norepinephrine overflow in rat hearts	Eur. J. Pharmacol., 591, 182-188 (2008)
杉浦孝宏, 筒居秀伸, 高岡昌徳, 小淵修平, 林健太郎, 藤井俊秀, 松村靖夫	Protective effect of agmatine on ischemia/reperfusion-induced renal injury in rats	J. Cardiovasc. Pharmacol., 51, 223-230 (2008)
上田恭子, 平田智子, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	Preventive effect of TRPV1 agonists capsaicin and resiniferatoxin on ischemia/reperfusion-induced renal injury in rats	J. Cardiovasc. Pharmacol., 51, 513-520 (2008)
笹岡徹誠, 田和正志, 山本 愛, 大喜多守, 高岡昌徳, 松村靖夫, 他	Angiotensin II type 2 receptor-mediated inhibition of norepinephrine release in isolated rat hearts	J. Cardiovasc. Pharmacol., 52, 176-183 (2008)
佐竹藍子, 高岡昌徳, 西川満則, 弓場実規広, 柴田裕次郎, 奥村久美子, 北野圭祐, 筒居秀伸, 藤井貴和子, 小淵修平, 大喜多守, 松村靖夫	Protective effect of 17 β -estradiol on ischemic acute renal failure through the PI3K/Akt/eNOS pathway	Kidney Int., 73, 308-317 (2008)
大野行弘, 清水佐紀, 今木淳太, 石原 静, 祖父江伸匡, 河合悦子, 他	Evaluation of the antibradykinetic actions of 5-HT _{1A} agonists using the mouse pole test	Prog. Neuro-Psychopharmacol. Biol. Psychiat., 32, 1302-1307 (2008)
大野行弘, 清水佐紀, 今木淳太, 石原 静, 祖父江伸匡, 河合悦子, 他	Anticataleptic 8-OH-DPAT preferentially counteracts with haloperidol-induced Fos expression in the dorsolateral striatum and the core region of the nucleus accumbens	Neuropharmacology, 55, 717-723 (2008)
稲垣佐知子, 木村麻紀, 田中一彦, 他	Chymase activates promatrix metalloproteinase-9 in human abdominal aortic aneurysm	Clin. Chim. Acta, 388, 214-216 (2008)
秋元庸子, 廣岡輝子, 田中一彦, 他	Blood cell, liver function, and response changes by PEG-interferon- α 2b plus ribavirin with polaprezinc therapy in patients with chronic hepatitis C	Hepatol. Int., 2, 111-115 (2008)
加藤隆児, 廣谷芳彦, 津倉由里, 小林豊英, 井尻好雄, 田中一彦, 他	Cross-reactivity between urobilinogen and digoxin; a comparative sensitivity study of FPIA and MEIA -A relationship between urobilinogen and digitalis-like immunoreactive substances in human urine-	Probl. Ter. Monit., 19, 3-9 (2008)

著 者	標 題	掲 載 誌
加藤隆児, 田中一彦, 他	The effect of bucolome, a CYP2C9 inhibitor, on the pharmacokinetics of losartan	Drug Metab. Pharmacokinet., 23, 115-119 (2008)
加藤隆児, 藤原あずさ, 川井崇子, 森口 純, 中川真智子, 津倉由里, 天野富美夫, 廣谷芳彦, 井尻好雄, 田中一彦, 他	Changes in digoxin pharmacokinetics treated with lipopolysaccharide in Wister rats	Biol. Pharm. Bull., 31, 1221-1225 (2008)
加藤隆児, 徳永友佳, 川井崇子, 津倉由里, 天野富美夫, 廣谷芳彦, 井尻好雄, 田中一彦, 他	Effects of CpG-DNA from <i>Escherichia coli</i> on digoxin pharmacokinetics	Biol. Pharm. Bull., 31, 1226-1229 (2008)
小林豊英, 井尻好雄, 田中一彦, 他	Evaluation of an electrolysis apparatus for inactivating antineoplastics in clinical wastewater	Chemosphere, 72, 659-665 (2008)
廣谷芳彦, 加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦, 他	Protective effects of lactoferrin against intestinal mucosal damage induced by lipopolysaccharide in human intestinal Caco-2 cells	YAKUGAKU ZASSHI, 128, 1363-1368 (2008)
加藤隆児, 山下哲史, 森口 純, 中川真智子, 津倉由里, 天野富美夫, 廣谷芳彦, 井尻好雄, 田中一彦, 他	Changes of midazolam pharmacokinetics in Wister rats treated with lipopolysaccharide: relationship between total CYP and CYP3A2	Innate Immunity, 14, 291-297 (2008)
加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦, 他	タクロリムスが腸肝循環する可能性について	TDM 研究, 25, 37-40 (2008)
秋元庸子, 廣岡輝子, 鍋島 静, 田中一彦, 他	C 型慢性肝炎に対するペグインターフェロン / リバビリン併用療法の効果と脂質要因との関係	医療薬学, 34, 355-360 (2008)
高津千裕, 田中一彦, 他	rHuEPO 最大量投与患者における darbepoetin alfa の有用性に対する検討	大阪透析研究会会誌, 26, 187-191 (2008)
幸田祐佳, 白川久志, 山根一彦, 田中孝生, 他	Prevention of incipient diabetic cardiomyopathy by high-dose thiamine	J. Toxicol. Sci., 33, 459-472 (2008)
田中孝生, 他	Enhanced expression of type 1 helper T-cell cytokines in the myocardium of active cardiac sarcoidosis	Circ. J., 72, 1303-1307 (2008)
田中孝生, 他	Markedly increased intracellular lipid droplets and disruption of intercellular junctions in biopsied myocardium from a patient with arrhythmogenic right ventricular cardiomyopathy	Heart Vessels, 23, 440-444 (2008)
中原良介, 藤本 剛, 土井光暢, 森田華奈子, 山口敬子, 藤田芳一	Fluorophotometric determination of hydrogen peroxide and other reactive oxygen species with fluoresein hydrazide (FH) and its crystal structure	Chem. Pharm. Bull., 56, 977-981 (2008)
神野伸一郎, 市川隼人, 和田俊一, 堀尾有加, 宇佐美吉英, 山口敬子, 好田稔規, 原田亜季, 嶋貫和紗, 有本正生, 土井光暢, 藤田芳一	Design and synthesis of regioisomerically pure unsymmetrical xanthene derivatives for staining live cells and their photochemical properties	Bioorg. Med. Chem. Lett., 18, 4380-4384 (2008)
長谷川浩平, 清水久実代, 榎井友梨奈, 山口敬子, 藤田芳一	尿グルカリン酸測定法の改良とその応用	YAKUGAKU ZASSHI, 128, 135-140 (2008)
藤田芳一, 他	S-1長期投与後の尿中ウラシル値の変動と再発との関係の検討	癌と化学療法, 35, 947-950 (2008)
長谷川浩平, 藤田芳一, 他	服薬コンプライアンスのさらなる向上と薬剤管理指導業務 - 患者の好む薬とは -	医療薬学, 34, 800-804 (2008)
榎井友梨奈, 坂井暖菜, 川上由莉恵, 神野伸一郎, 山口敬子, 藤田芳一	α -スルホフェニルフルオロン-ニオブ (V) 錯体を用いる尿タンパク質の定量	分析化学, 57, 637-642 (2008)
田中景子, 西岡有佳, 香西佑美, 山口敬子, 藤田芳一	エリスロシンとパラジウム (II) を用いるチアミン及びチアミン関連化合物のメンブランフィルター捕集による定量	分析化学, 57, 643-649 (2008)

著 者	標 題	掲 載 誌
荒川行生, 他	High-efficacy site-directed drug delivery system using sialyl-Lewis X conjugated liposome	Experimental Eye Res., 86, 138-149 (2008)
荒川行生, 他	Suppressive action of pituitary adenylate cyclase activating polypeptide (PACAP) on proliferation of immature mouse Leydig cell line TM3 cells	Biomed. Res., 29, 321-330 (2008)
恩田光子, 荒川行生, 他	薬局における調剤過誤防止に対する安全風土に関する研究	YAKUGAKU ZASSHI, 128, 625-633 (2008)
恩田光子, 荒川行生, 他	DPC 包括評価導入前後における対術後感染抗菌薬使用状況の変化	社会薬学 (Jpn. J. Soc. Pharm.), 27, 29-37 (2008)
恩田光子, 他	DPC における薬剤師のクリニカルパスと医薬品マネジメントに関する調査研究	日本病院薬剤師会雑誌, 44, 24-25 (2008)
恩田光子, 他	ファーマシューティカルケアの薬剤経済学的研究に関する検討	日本病院薬剤師会雑誌, 44, 34-38 (2008)

2. 総説・解説

著 者	標 題	掲 載 誌
宇佐美吉英, 市川隼人, 有本正生	Synthetic efforts for stereo structure determination of cytotoxic marine natural product pericosines as metabolites of <i>Periconia</i> sp. from sea hare	Int. J. Mol. Sci., 9, 401-421 (2008)
谷口雅彦, 芝野真喜雄, 馬場きみ江, 他	アシタバの機能性に関する研究と特許出願の動向	東京都農林総合研究センター研究報告, 3, 81-87 (2008)
小林祐次, 他	アディポネクチンの超分子構造	アディポネクチンとその受容体 (フジメディカル出版), 9-19 (2008)
高山淳二, 高岡昌徳, 松村靖夫	ラットおよびマウスにおける腎機能低下モデルの簡便な作製方法ー急性および慢性腎不全モデルー	日本薬理学雑誌, 131, 37-42 (2008)
大野行弘	精神疾患治療薬の創薬展望	脳21, 11, 158-164 (2008)
大野行弘	Spatial potassium buffering 空間的カリウム緩衝機構	日本薬理学雑誌, 132, 127-129 (2008)
加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦	セララ錠25mg, 50mg, 100mg	調剤と情報, 14, 51-56 (2008)
加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦	ケアロード LA 錠60 μ g, ベラサス LA 錠60 μ g	調剤と情報, 14, 447-457 (2008)
加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦	コンサータ錠18mg, 27mg	調剤と情報, 14, 951-962 (2008)
井尻好雄, 他	薬剤誘発性の甲状腺中毒症・甲状腺機能低下症	ホルモンと臨床, 56, 743-750 (2008)
藤田芳一	生体成分と医薬品の吸光光度分析	ぶんせき, 11, 596-602 (2008)

3. 紀要・翻訳

著 者	標 題	掲 載 誌
宇佐美吉英	高度に官能基化された生理活性シクロアルケノイド類の全合成による構造決定	大阪薬科大学紀要, 2, 91-102 (2008)
浅野晶子	アシジアサイクラマイド及びその誘導体の構造化学的研究	大阪薬科大学紀要, 2, 119-134 (2008)
山下潤二, 松村靖夫	腎虚血・再灌流障害の病態発症および進展機構に関する研究	大阪薬科大学紀要, 2, 145-153 (2008)
加藤隆児, 井尻好雄	10th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology に参加して	大阪薬科大学紀要, 2, 167-170 (2008)
山口敬子, 中原良介, 大久保佳代, 山本奈苗, 藤田芳一	EDTA 共存下, チタン (IV) - サリチルフルオロン-ヘキサデシルピリジニウム三元錯体の退色に基づく過酸化水素の吸光光度定量	大阪薬科大学紀要, 2, 103-110 (2008)
濱中久美子	ル・フォール文学における不信仰者について	大阪薬科大学紀要, 2, 9-25 (2008)
当麻成人	第24回ユニバーシアード競技大会 (2007/ パンコク) 水球競技について	大阪薬科大学紀要, 2, 77-87 (2008)
当麻成人, 他	運動継続のための新たな運動処方	松山大学論集, 20, 243-259 (2008)

4. 著 書

著 者	標 題	出 版 社
馬場きみ江	食品機能性の科学 第5節 カルコン類	産業技術サービスセンター, 295-298 (2008)
田中麗子, 山田剛司, 他	NEW 医薬品化学 第7章	廣川書店, 125-163 (2008)
掛見正郎, 他	辻 彰 編 「わかりやすい生物薬剤学 第4版」	廣川書店 (2008)
掛見正郎, 他	辻 彰 編 「わかりやすい物理薬剤学 第4版」	廣川書店 (2008)
掛見正郎, 田中一彦, 西野隆雄	薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構 編 「薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト 2008年版」	じほう (2008)
掛見正郎, 他	辻 彰 編 「薬剤師のための常用医薬品情報集 2008年版」	廣川書店 (2008)
高山淳二, 高岡昌徳, 山本真也, 松村靖夫	腎虚血再灌流障害の性差における meprin の役割	東京医学社, 腎とフリーラジカル第9集, 83-86 (2008)
田中一彦, 田中孝生, 井尻好雄, 加藤隆児	赤池昭紀・石井邦雄・越前宏俊・金子周司 編 「最新薬物治療学」 第2章 心臓・血管系疾患	廣川書店, 89-125 (2008)
田中一彦, 井尻好雄, 荒川行生 編集	実践処方例とその解説 一処方を読み方と考え方	じほう, 1-457 (2008)
田中一彦, 荒川行生, 井尻好雄, 恩田光子, 加藤隆児, 他	実践処方例とその解説	じほう (2008)
恩田光子, 他	ミクス薬学実践シリーズ 薬剤経済学の活用ー医薬品の経済的エビデンスをつくる・つかうー	エルゼビア・ジャパン (2008)
濱中久美子, 他	ドイツ文化を担った女性たちーその活躍の軌跡	鳥影社・ロゴス企画, 51-63 (2008)
土井 勝	エッセンシャル 熱力学	日科技連出版社 (2008)

5. 特 許

出 願 者	標 題	特 許 番 号
芝野真喜雄	イミノ糖類の定量方法	特許公開2008-151662 (2008)
芝野真喜雄, 谷口雅彦, 馬場きみ江, 他	オオボウシバナ由来のフラボノイドを含有するヒアルロン酸合成促進剤, 抗老化剤および皮膚外用剤	特許公開2008-94792 (2008)
辻坊 裕, 土屋孝弘, 箕浦克彦, 他	5-ヒドロキシ-3-イソシアノー5-ピニルシクロペンター2-エノン, チロシナーゼ阻害剤及びこれを配合した美白化粧品	特願2008-135936 (2008)
塚本哲夫 (発明者: 天野富美夫)	ラクトフェリン添加乾燥食品及びその製造方法	特願2008-254859 (2008)

総務課

人事

採用 (平成21年2月1日付)

薬剤師 坪井 智子 (嘱託職員)
(平成21年4月1日付)
事務職員 長瀬 護 (嘱託職員)
事務職員 伊藤 由佳
事務職員 藤井 健史
事務職員 道本 哲哉
事務職員 森迫 宏幸
事務職員 吉野 誠一
薬剤師 宮森 牧子 (嘱託職員)
(平成21年6月22日付)
事務職員 渡辺 威郎 (嘱託職員)
(平成21年7月1日付)
薬剤師 小川 賀偉 (嘱託職員)

退職 (平成20年12月31日付)

事務職員 中野 葉月
特別研修薬剤師 清家 希穂
(平成21年2月26日付)
事務職員 鶴殿 千晶
(平成21年3月31日付)
准教授 有本 正生 (定年)
助教 市川 隼人
(平成21年5月17日付)
薬剤師 宮森 牧子 (嘱託職員)

昇任 (平成21年4月1日付)

准教授 佐久間 寛
准教授 恩田 光子
講師 尹 康子
講師 河合 悦子
講師 佐藤 卓史
助教 山沖 留美
助教 加藤 隆児
事務局次長 秋月 延夫

併任 (平成21年1月19日付)

大学院博士後期課程担当教員 荒川 行生 (教授)
(平成21年4月1日付)
教務部長 石田 寿昌 (教授)
学生部長 土井 勝 (教授)
薬用植物園長 三野 芳紀 (教授)
特任講師 鈴木 靖規 (附属薬局薬剤師)
(平成21年4月9日付)
大学院博士後期課程担当教員 佐久間 寛 (准教授)
大学院博士後期課程担当教員 恩田 光子 (准教授)
大学院博士前期課程担当教員 尹 康子 (講師)
大学院博士前期課程担当教員 河合 悦子 (講師)
大学院博士前期課程担当教員 佐藤 卓史 (講師)
大学院博士前期課程指導教員 山沖 留美 (助教)
大学院博士前期課程指導教員 加藤 隆児 (助教)
(平成21年7月1日付)
防災管理者 土井 勝 (教授)

委嘱 (平成21年4月1日付)

客員教授 小林 祐次 (常勤)
特任教授 金 啓二 (非常勤)
特任教授 二見 高弘 (非常勤)
特任教授 山本 克己 (非常勤)
校医 柚木 孝士 (非常勤)
学生相談室顧問 米田 博 (非常勤)
学生相談室相談員 岡 鈴佳 (非常勤)
学生相談室相談員 原 祐子 (非常勤)

客員研究員 (平成21年4月1日付)

濱 六郎
相馬 義郎
Tzyh - Chang Hwang
梶本 哲也
嶋林 三郎
(平成21年5月1日付)
水野 洋

(平成21年7月1日付)

林 哲也
森 龍彦

招へい教授 (平成21年4月1日付)

濱 六郎 (客員研究員)
Tzyh - Chang Hwang (客員研究員)
嶋林 三郎 (客員研究員)
(平成21年5月1日付)
水野 洋 (客員研究員)

非常勤講師

(前期:平成21年4月1日付)

<学部>

伊藤 信也 (人間と文化4b (女性学)、異文化言語演習1)
大川 裕也 (英語1)
岡田 忠克 (社会薬学2)
奥村沙矢香 (異文化言語演習1)
小松 敏彦 (健康科学演習)
武内 徹 (免疫学)
谷口 智美 (フランス語1、フランス語2)
鶴 真一 (フランス語4、人間と文化4a (人間と宗教))
戸田 有一 (人間と文化1b (人間と心理)、異文化言語演習1)
中村 恵 (ドイツ語1、ドイツ語2、ドイツ語4、異文化言語演習1)
橋口 雅美 (健康科学演習)
樋口 久 (英語1)
藤岡 重和 (臨床生理学)
藤本 幸治 (異文化言語演習1)
藤原 英明 (医用工学概論)
榎矢 桂一 (ドイツ語1、ドイツ語2、異文化言語演習1)
松村 泰志 (医療情報学)
守谷 賢輔 (人間と文化1a (人間と法))
和田 晋一 (臨床生理学)
Ian Murray Richards (英語3)
Joseph Michael Jacobs (英語3)
宮田 真希 (健康科学演習) (非常勤助手)
門川 裕美 (健康科学演習) (非常勤助手)
鎌野 知裕 (健康科学演習) (非常勤助手)

(「臨床導入実習」担当者)

長舩 芳和 笠原 伸元 佐藤健太郎
鈴木 由加 鈴木 芳郎 花山加代子
人見 滋樹 熊代 哲也 早川 智子
御園生昌史 野田 礼子 川原 淳
渡邊 幸子 下浦 達明 磯脇 雄一
明石奈緒美 堀口 道子 佐竹 正人
藤田 知子 岩田 恵樹

<大学院>

上野 和行 (臨床医学Ⅲ (臨床薬理学Ⅱ))
濱 六郎 (薬剤疫学)
林 哲也 (病態生理学Ⅰ)
樋口純一郎 (臨床心理学)
光木 徹 (臨床医学Ⅱ)
吉栖 正典 (薬効安全性学 (医療薬学Ⅱ (薬理学)))

(後期:平成21年9月14日付)

<学部>

伊藤 信也 (異文化言語演習2)
大川 裕也 (英語2)
奥村沙矢香 (異文化言語演習2)
下川 敏雄 (情報科学)
辻 光宏 (情報科学)
鶴 真一 (フランス語3)
中野 隆史 (病原微生物学)
東井 孝之 (薬学英語2)
中村 恵 (ドイツ語3、異文化言語演習2、人間と文化4c (人間と文学)、人間と文化4e (ドイツ語・フランス語))
林 恭平 (生物統計学演習)
林 武文 (情報科学)
樋口 久 (英語2)

藤本 幸治（異文化言語演習2）
樹矢 桂一（ドイツ語3、異文化言語演習2、人間と文化2）
Ian Murray Richards（英語4）
Joseph Michael Jacobs（英語4）

■学位記授与式

平成21年3月14日（土）午前10時30分よりD棟講堂において、平成20年度大阪薬科大学学位記授与式（学部290名、大学院博士前期（修士）課程54名、博士後期（博士）課程1名）が来賓・保護者多数参列のもとに挙行されました。



■同窓会賞の贈呈

学部卒業生のうち、各学科の成績最優秀者（薬学科 久保田しずか：前列右、生命薬学科 生野可織：前列左）に対し、本学同窓会から同窓会賞（表彰状と副賞）が贈呈されました。



■寄 付

〔追補〕

本学研究活動への寄付金（100万円）
（ピオフェルミン製薬株式会社より、平成20年3月26日付）

■入学式

平成21年4月3日（金）午前10時30分よりD棟講堂において、平成21年度大阪薬科大学入学式（学部343名、大学院博士前期（修士）課程73名、博士後期（博士）課程1名）が来賓・保護者多数参列のもとに挙行されました。



■慶 弔

<叙勲>

岡 源郎 元学長（平成21年4月29日付）
<瑞宝中綬章>

<訃報>

山口 秀夫 名誉教授（平成21年1月22日逝去）
渡辺 威郎 キャリアサポート課長
（平成21年8月19日逝去）

■研究助成

独立行政法人 科学技術振興機構
平成21年度シーズ発掘試験採択
藤森 功（生体防御学研究室講師）
研究課題「新しい肥満モデルマウスを用いた薬剤
スクリーニング法の開発」
研究期間 平成22年3月31日まで

■海外出張

大野 行弘 准教授（薬品作用解析学研究室）
<出張期間：平成21年4月13日～4月20日>
Cold Spring Harbor 研究所学術会議への参加発表（アメリカ）

小林 祐次 客員教授（創薬基盤科学研究室）
<出張期間：平成21年6月6日～6月14日>
第21回 アメリカペプチドシンポジウム参加（アメリカ）

大喜多 守 講師（病態分子薬理学研究室）
<出張期間：平成21年9月9日～9月15日>
第11回エンドセリン国際会議への参加発表（カナダ）

〔追補〕

佐久間 覚 講師〔当時〕（環境分子生理学研究室）
<出張期間：平成20年8月25日～9月1日>
International Conference on the Bioscience of Lipids への参加発表（オランダ）

施設課

新学舎（D棟）竣工に際し、次のとおり寄贈がありました。厚く御礼申し上げます。

■本学育友会様より

① 1階学生ラウンジのテーブル・イス（屋内用）



■本学同窓会様より

中庭のベンチ

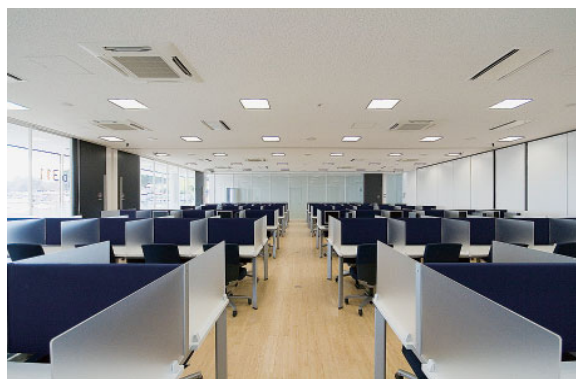


② 1階学生ラウンジのテーブル・イス（屋内用・屋外用）



■本学卒業生（昭和25年） 故長澤喜久子氏のご遺族様よりの寄付金にて

① 3階自習室のテーブル・イス



③ 3階ラウンジのテーブル・イス

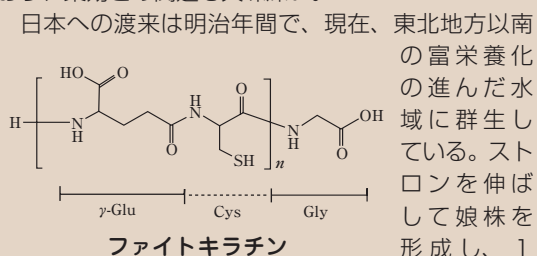


② 3階セミナー室のテーブル・イス



“メタボ”の代表格である布袋さまのおなかに、そのふくらんだ葉柄が似ているところから名づけられたホテイアオイ (*Eichhornia crassipes*、漢名：鳳眼藍) は、ミズアオイ科の代表的な水生植物である。南アメリカ原産で、観賞植物として栽培される。無数のひげ根があり、それぞれの根からたくさんの根毛が出るので、試験管洗いのブラシのようになっている。この根は金魚の産卵用にも使えるので、観賞用の淡水魚の水槽に水草として使ったりする。葉は束生し、倒卵状円形または倒心臓状卵形で、先端は僅かに突出し、滑らかで厚質、光沢があり、鮮緑色をしている。葉柄は長さ10～20cm、その中央部は倒卵形に膨大して内部が海綿状なので浮ぶくろの役をして浮くことができる。夏に葉の間から茎を出し、短い総状花序で直径3 cm ぐらいの淡紫色花を開く。花被の上部はロータ状鐘形で裂片は6個、上部正面の1片は幅広く、紫色のぼかしがあって、しかもその中央に黄点があるという、なかなかお洒落なデザインである。その花序の美しさからウォーターヒヤシンスとも呼ばれる。5月～8月にかけて、旺盛な繁殖力で多くの湖沼の水面を覆い隠す。松原キャンパスの薬草園やテニスコートの側の池に群生していたホテイアオイを思い出される方も多いと思われる。

ホテイアオイの全草あるいは根を乾燥したものを、中国では水葫蘆 (shuǐ hú lú) と呼び、清涼解毒、除湿 (体がだるく、関節や筋肉に疼痛がある状態を改善)、祛風熱 (風邪と熱を去る) の効能ありとし、また熱瘡 (高熱下に水疱発生) に塗布する。民間では、煎剤として浄血に用いるほか、ハップや浴剤として打ち身や傷薬に用いる。また、ジャワでは若芽や花序を食用にするという。成分として、ビタミンA、各種アミノ酸、γ-アミノ酪酸、ホモスペルミジン、フォスファチジルコリン、パルミチン酸、リノール酸、フォスファチジルエタノールアミン等が報告されており、薬効との関連も興味深い。



週間で株数は2倍になる。繁茂し過ぎると水質を悪化させるため、水生植物で唯一、世界十大害草として、青い悪魔 (blue devil) の名で恐れられている。しかし、富栄養化の進んだ水系に好んで繁茂する特性から、水質浄化に利用され、有用草としての一面ももっている。さらにこの植物はカドミウムなどの重金属に耐性をもち、これらを環境から除去する能力も兼ね備えている。

カドミウムに暴露されると、グルタチオン類似のペプチドであるファイトキラチン ($n=2\sim 11$ 、phytochelatins: phytoは植物、chelatinはキレート) が誘導され、そのシステイン残基のSH (S^-) 基で配位結合することでカドミウムを無毒化すること (HSAB理論によればソフト



ホテイアオイの群生



ホテイアオイの花

な酸 [金属元素] である Cd^{2+} はソフトな塩基 [配位子] である S^- と結合しやすい)。周知のように哺乳動物では、重金属暴露によりシステイン残基を多く含むタンパク質、メタロチオネインが誘導される。動植物共に、重金属の無毒化にシステインの配位能を利用する点は同じであるが、動物ではメタロチオネイン自体の遺伝子発現が誘導されるのに対し、植物ではファイトキラチンの合成酵素が誘導される点で異なっている。

近年、問題になっているカドミウム汚染米の解決策として、カドミウム除去能をもつホテイアオイなどの植物を利用した土壌浄化の取り組みが期待されている。ホテイアオイが「青い悪魔」ではなく、「有用草の代表格」と称されていることであろう、遠い未来に思いを馳せた。(薬用植物園長 三野 芳紀)

発行
大阪薬科大学

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4丁目20番1号
TEL (072) 690-1000 (代表)
FAX (072) 690-1005 (//)
URL <http://www.oups.ac.jp>